

2022年度

海洋教育パイオニアスクールプログラム  
(地域展開・アドバンス部門)

「地域に根ざした海洋教育」  
実践記録集



大阪府阪南市教育委員会

# 阪南市の海洋教育について

## 1. 海洋教育に取り組む意義

阪南市は、森・里・川・海が近接し、交じり合うロケーションにあり、これらに支えられる人々が暮らすまちである。

市内には大阪湾の中でも貴重な自然海岸と、尾崎・西鳥取・下荘の3漁港があり、古くから「たこつぼ漁」や「地引き網漁」が行われてきた漁業が盛んな地域である。現在も、昔ながらの方法で「のりやワカメの養殖」が営まれていたり、「カキの養殖」が行われていたりするなど、海と近い生活が息づいている。

学校現場においては、海に比較的近い小学校を中心に、以前から地域の海をテーマとした教育活動を行っている。内容としては、児童にとって身近な存在である大阪湾に生息する生き物や地域の産業として漁港で働く人々について学んだり、実際にアマモ場の再生活動を行ったりすることにより、自分たちの住む地域が海と大きく関わっていることについて理解を深めている。

2018年11月には、阪南市を会場として「全国アマモサミット 2018in 阪南」を開催し、大阪府下で最大規模のアマモ場を擁する阪南の海のすばらしさ、その海を保全・再生させることに携わる人々の活動について発信した。

この全国アマモサミットの開催により高まった地域の自然環境への関わりや保全意識をサミット後も継続、さらに発展させていくことが大切である。海洋教育では、海での活動を通して阪南市の自然のすばらしさを知り、その自然環境を守っていくために主体的、協働的な学習を進めていくことにより、自ら課題を解決していく力をつけていくことをねらいとしている。

## 2. 海洋教育の実施体制

2019年4月に「阪南市海洋教育推進協議会」の設置要綱を制定し、協議会を立ち上げた。協議会は、学識経験者、海洋教育を行う学校の代表者、外部有識者、市行政職員で構成し、海洋教育実施における課題解決及び新たなプログラム開発に関することなどについて協議を行っている。また、海洋教育の円滑な推進を図るために、各校の海洋教育担当者、外部有識者、市行政職員等で構成する「企画運営部会」を置いている。

2021年度は企画運営部会を中心に、海洋教育副読本「はんなんのうみ」の作成を行った。

2022年度は海洋教育推進協議会を中心に、阪南市版海洋リテラシー「はんなん海洋リテラシー」の作成を行った。

## 3. 海洋教育実施校

初年度となる2019年度は、西鳥取小学校、下荘小学校、舞小学校の3校でスタートをした。2020年度からは、尾崎小学校、2021年度からは上荘小学校が新たに加わり、小学校5校を中心として海洋教育の取組みを進めている。

#### 4. 副読本の活用状況

副読本については、海洋教育実践校だけではなく市内全小学校に配付した。また、幼稚園や中学校についても参考に配付した。

海洋教育実施校では、副読本を活用した学習を進めることにより、子どもたちは見通しをもちながら課題に取り組む、探究的な活動を行った。また、副読本を使った公開授業を実施し、副読本の効果的な活用方法について協議、研究を進めている。

そして、海洋教育実施校以外の学校においても副読本を活用することで、阪南市の自然環境及び漁港等の産業が海とつながっていることについて理解を深める授業実践を進めている。

さらに、副読本では「豊かな環境を守っていくために」という単元を設定している。本単元では、自分たちの生活を振り返って環境問題について考えるところから、マイクロプラスチックごみの問題を含む海をとりまく国際的な環境問題へとグローバルな視点で環境問題について学習することで、地域の海が世界の海へとつながっていること等、海洋への科学的理解を深める。そして、SDGsの取り組みなど海洋を含む環境保全を図るための活動を知るなかで、この問題を自分事ととらえ、課題を解決するためには自分たちに何ができるかということを中心に考え、行動できるよう授業実践を進めている。

#### 5. 海洋教育に関する課題とその解決のための取り組み

海洋教育パイオニアスクールプログラムの地域展開部門を活用し、海洋教育の取り組みを進めていくなかで実施校は小学校3校から現在の小学校5校までに広がった。今後、他の小学校や他校種（幼稚園、中学校）へと市の海洋教育を広げていくことが課題であったが、次年度は新たに小学校3校が加わることとなり、市内全小学校で実施していく予定となった。また、実施校以外でも副読本を活用していくことや、教員対象の研修への積極的な参加を呼びかけ、今年度は実施校以外からの参加者もあった。また、次年度への取り組みにつなげていけるよう実施していない小学校の子どもが体験できるような取り組みを企画・実施した。

海洋教育の取り組みを進めるなかで、各校の立地等を踏まえた実施校独自のカリキュラムも作成されてきている。また、以前は外部講師の協力なしではできなかった活動も、学校のみで取り組めるようになってきた。今後、各校で教員の入れ替わり等があったとしても、取り組みが継続できるよう、副読本を活用した指導案の蓄積や各校における実施体制の構築を進めている。

#### 6. 海洋教育のさらなる展開に向けての取り組み

今年度は、昨年度作成した海洋教育副読本を活用した取り組みを推進してきた。海洋教育実践校において副読本を活用した事業実践を進め、実践校全5校で副読本を活用した授業の公開を実施した。公開授業の様子については、市内の小中学校の教員に動画等も活用し、実践例を周知することで活用を進めている。また、次年度は、市内全小学校で海洋教育を実施することとなる。各実施校の立地等を踏まえた独自のカリキュラムも含め、実施校間で情報交換・共有しながら海洋教育副読本を活用したカリキュラム開発を進め、さらに阪南市の海洋教育を推進していきたい。

## 7. 阪南市版海洋リテラシー「はんなん海洋リテラシー」について

### 【はんなん海洋リテラシー】

はんなんのうみからわたしたちが受けている様々な影響について理解し、そして、はんなんのうみとわたしたちの未来に向けてできることは何かを考え発信していくこと

### 【はんなん海洋リテラシーとは】

阪南市の海洋教育は、学校現場の少数の先生たちの主体的な教育実践からスタートしました。先生方が子どもたちの体験活動していたところに、多くの団体やボランティアの方々に参加していただき、「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の助成を受け、現在、市内の小学校で行われている海洋教育となりました。

阪南市版の海洋リテラシー「はんなん海洋リテラシー」は、学校教育に根ざしたのからスタートします。

これは、現在、教育委員会と学校が共有するものとなっておりますが、今後については、「海洋教育」を持続可能な教育の取組とするために、学校教育に限定するのではなく、社会教育として「海洋教育」を根付かせていく必要があります。そのため、次年度より市民との協働により「(仮称)はんなん海の学校」を創設することで、社会教育として子どもや若者を中心に「海洋教育」に関する専門的な内容の講義や体験など気軽に学べる機会を提供してまいります。

「はんなん海洋リテラシー」は市民の皆さんと共有するなかで、様々な方の声や視点を取り入れながら、これからも発展していきます。

### 【はんなん海洋リテラシーを構成する5つの原則】

1. はんなんのうみはわたしたちと海全体をつないでいる。
2. はんなんのうみには多種多様な生き物がいて、命のつながりがある。
3. はんなんのうみがすばらしい自然環境を支えている。
4. はんなんのうみは特徴ある文化、産業を生み出している。
5. はんなんのうみはわたしたちの未来につながっている。

そして、『阪南の海洋教育において「はんなん海洋リテラシー」を育成するための方針（ねらい）』を次のように決めました。

1. はんなんのうみに出会い、親しむ
  - ・身近に多くの生き物を育む海があることを知り、体験学習で五感を通して海に興味関心をもつ。
2. はんなんのうみのすばらしさを知る
  - ・海には多種多様な生き物がいることを知り、その生命のつながりを知る。また、それらの生き物によって私たち人間の生活も支えられていることを知る。
3. はんなんのうみと川や山とのつながりを知る
  - ・海の環境を守るためには、海だけではなく川や山の環境を守り、育てていくことも大切だということを知る。
4. はんなんのうみの文化、産業について知り、伝える
  - ・阪南市の産業である漁業やワカメ、ノリやカキの養殖等について学び、地域の方とのふれあいで地域が海との暮らしの中で受け継いできた文化に触れ、その歴史について知る。
5. はんなんのうみと自然環境のこれからについて考え、行動する
  - ・阪南市の豊かな自然を守っていくために、そして、大阪湾や世界の海をはじめとする自然環境をきれいなまま未来に引き継ぐために、自分たちに何ができるのかということ、海洋教育の豊かな自然活動を通して身につけた、主体的に課題を発見し解決しようとする態度や学んだことを活かそうとする力で考え、行動する。

また、合わせて「はんなん海洋リテラシーを育むための発達段階別育成目標」も決めました。

### はんなん海洋リテラシーを育むための発達段階別育成目標

方針 学年	1.はんなんのうみに出会い、親しむ	2.はんなんのうみのすばらしさを知る 3.はんなんのうみと川や山とのつながりを知る	4.はんなんのうみの文化、産業について知り、伝える	5.はんなんのうみと自然環境のこれからについて考え、行動する
小学校 低学年 (1,2年)	・海辺での遊びや生き物などのふれあいを通して、海の自然に親しみ、海を身近に感じることができる。	・海の生き物の名前や特徴等に関心を持ち、進んで調べることができる。		
小学校 中学年 (3,4年)	・海の環境を保全する活動を通して、自然環境の状況や自分たちの生活が自然に影響をおよぼすことを知り、進んで海の自然を守ることができる。	・海の生き物の特徴や、その生育環境の違い等を、作品作りや体験活動を通して学ぶと共に海の楽しみ方を知ることができる。	・地域の人々の生活や仕事、季節の変化に気づき、海と関わり暮らす人々とふれ合うことができる。	・海の環境を保全する活動を通して、自然環境の状況や自分たちの生活が自然環境に影響を及ぼすことを知り、進んで海の自然を守ることができる。
小学校 高学年 (5,6年)	・海に関わる仕事の体験や施設の見学を通して、海の自然や文化に親しんだり、海に関わる多様な仕事にふれたりして、進んで海に関わることができる。	・海の生き物の多様性や生態系、海の歴史や文化に関心を持ち、関連付けたり推測したりして調べることができる。	・聞き書き等を通じて、漁業も含めた地域の歴史や文化について学び、6年間のまとめとして今後活かす。 ・日本の水産業や海運、海洋自然について調べ、人々の豊かな生活を支えてきた海の様々な役割やよさを理解するとともに、海を利用することの大切さに気づくことができる。	・地域の特性を生かした海の産業や、日本各地は海によってつながっていることを知り、海とともに生活をしようすることができる。 ・地球規模の環境問題や国際的な取組を調べ、海の環境保全のために自分たちができることを考え、様々な方法で取り組むことができる。

## 8. 2022年度 海洋教育年間スケジュール

月	2022年度の市の取組み
4	年間計画の立案
5	第1回 企画運営部会（5月17日） ・今年度の市及び学校の活動について
6	第2回 企画運営部会（6月30日） ・海洋教育研修会の実施方法及び副読本を活用した公開授業の実施について
7	第1回 海洋教育推進協議会（7月14日） ・会長、副会長等の選出 ・2021年度事業報告及び決算報告 ・2022年度事業計画案及び予算案についての協議  里海をめぐる高校生フォーラム（7月18日） ・阪南市の海洋教育の取組みの紹介  海洋教育研修会（阪南市教育委員会主催）（7月29日） ・午前中は講演会、午後は海で実習を実施
8	海洋教育研究会（日本財団・笹川平和財団海洋政策研究所主催）（8月25日） ・副読本の作成およびその活用について発表
9	第3回 企画運営部会（8月31日） ・副読本を活用した公開授業について実施方法やスケジュールについて
10	第4回 企画運営部会（10月18日） ・公開授業の内容・日程等の確認および実践報告会について
11	泉南・泉北ブロック教育委員会研修会（11月10日） ・阪南市の海洋教育の取組みについて発表  第2回 海洋教育推進協議会（11月15日） ・市及び実施校の活動状況について ・2022年度 海洋教育パイオニアスクールプログラムの申請について ・阪南市版海洋リテラシー作成の進捗状況について
12	第5回 企画運営部会（12月26日） ・実践報告会の実施方法及び今後の活動について
1	第6回 企画運営部会（1月17日） ・実践報告会等について
2	
3	海洋教育実践交流 ・実施校同士が取組みをまとめた動画による交流を実施  阪南市 SDGs 未来都市シンポジウム（3月4日） ・阪南市の海洋教育の取組みについて発表  実践記録集作成

実施校支援・阪南市版海洋リテラシー作成

実施校  
公開授業

## 9. 海洋教育研修会

**目的** 海洋教育を行う意義や、各校で海洋教育を行う際の活動計画の立て方等について学び、実際に海での活動を教員自らが体験することにより、指導技術を習得するとともに各学校が取り組める実践内容を増やすことで、持続可能な海洋教育の実施体制の構築を図る。

**日時** 令和4年7月29日（金）10：00～16：30  
10：00～11：30 講演  
13：00～16：30 海洋実践研修

**場所** 午前：阪南市防災コミュニティセンターまもる館 1階研修室  
午後：西鳥取海岸

**対象者**

- ・海洋教育実施校教職員
- ・環境教育担当者等
- ・各小中学校の初任者（悉皆）

**講師** 岩井 克巳 氏（NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター）  
「大阪湾や阪南の海、海洋教育の意義と進め方について」  
石川 恵 氏（チーム☆ガサ）  
「生き物観察におけるポイントについて」

## 10. 海洋教育実践報告会

海洋教育に取り組む実践校が取り組みをまとめた動画を作成し、実践校同士で視聴し、感想の交流を行った。

また、実施校が作成した動画を市のウェブサイトに掲載し、広く発信した。

○阪南市ウェブサイト 海洋教育ページ

【URL】

<https://www.city.hannan.lg.jp/kakuka/syogai/gakko/1615283243604.html>

【QRコード】





1年

海辺の自然に親しもう

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

- ・自分たちの住んでいる地域の海に興味を持ち、海辺の自然に親しみを持つことができる。
- ・体験的な活動を通し、身近な海の自然や生き物とふれあうことができる。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

- ・尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知る。
- ・浜辺で見つけたものや、打ち上げられた漂流物を収集したり観察したりすることができる。

○思考、判断、表現

- ・見つけたものや収集したものについて、気づいたことや感じたことを、他者に伝えることができる。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・尾崎の海や浜辺に生息する生き物に興味を持ち、進んで活動に取り組んでいる。
- ・気づいたことや感じたことを自分なりに表現しようとしている。

3. 単元の指導計画（全5時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1 2 (本時)	○ビーチコーミングを行う。【生活】 ・ビーチコーミングについて話を聞く。 ・尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知る。 ・浜辺で見つけたものや、打ち上げられた漂流物を収集したり観察したりする。	○準備物 作業用手袋・ビニール袋・レインコート・体育館シューズ・替えのくつ下・タオル ○安全面についての事前指導を行う。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター：岩井 克己さん
	3	・収集した貝殻やシーグラス、見つけた生き物について、気づいたことや感じたことを観察カードに書く。【生活】	○観察カードに記入する。 (見たこと・さわったこと・におったこと・きいたこと・思ったこと)

2	4 5	○フォトフレーム作りをする。【図工】 ・収集した貝殻やシーグラスを洗い、乾かしておく。 ・フォトフレームを組み立てる。 ・フォトフレームに、絵の具を混ぜ込んだ紙粘土を貼り、貝殻やシーグラスで飾り付けをする。	○準備物 フォトフレーム・紙粘土・絵の具・貝殻・シーグラス
---	--------	--	----------------------------------

#### 4. 他教科等との関連

○生活科「がっこうのまわりをあるいてみよう」

- ・学校の周辺にある自然や施設、人々の存在などに気づき、その様子を感じながらみんなで歩いたり、自分の地域を見直したりする。

○図工科「すてきな魚をかこう」

- ・自分だけのオリジナルの魚を考えてかく。

○図工科「フォトフレームをつくろう」

- ・ビーチコーミングで収集した貝殻やシーグラスを使って、フォトフレームを作る。

○国語科「うみのかくれんぼ」

- ・海を見た体験や遊んだ体験、知っている海の生き物などについて話す。
- ・何が、どこに、どのようにかくれているか、見つけながら読む。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

ビーチコーミングを通して、尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知り、進んで活動に取り組むことができる。

##### (2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○ビーチコーミングについての話を聞く。	○安全面に配慮する。 ・収集したり観察したりするポイントを伝える。
25	○浜辺で見つけたものや、打ち上げられた漂流物を収集したり観察したりする。	
10	○ふりかえりをする。	○次時の活動に意欲を持つことができるよう促す。

## 6. 成果と課題

- ・初めてのビーチコーミングだったが、みんなで楽しく参加することができた。
- ・実際に見て触って体験することを通して、子どもたちの意欲も高まり深く学ぶことができた。
- ・自分たちの身近な海や自然に興味を持つことができたので、引き続き今後の海洋教育へとつなげていきたい。



2年

海辺の自然に親しもう

阪南市立尾崎小学校

### 1. 単元目標

○身近な海辺の生き物とのふれあいを通して、自分たちの住んでいる地域の海に興味を持ち、海辺の自然に親しむ心情をもつことができる。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知る。浜辺に打ち上げられた漂流物や見つけたものを、収集したり観察したりする。

#### ○思考・判断・表現

収集したものや見つけたものについて、感じたことやわかったことをわかりやすくまとめたり、他者に伝えるために工夫したりして表現する。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

尾崎の海や浜辺にいる生き物や漂流物に興味を持ち、進んで取り組んでいる。わかったことやまとめたことを、友だちに伝えようとしている。

### 3. 単元の指導計画（全8時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1 2	○チリメンモンスターを探せ【生活】	○準備物 ルーペ・皿・つまようじ・ボンド PC ☆チーム・ガサ
2	3 4 (本時)	○ビーチコーミングを行う。 ・身近な海に生息する生き物について知り、浜辺に打ち上げられた漂流物を収集したり、観察したりする。【生活】	○準備物 軍手・ビニール袋・レインコート 体育館シューズ・かえのくつ下 ○安全面についての事前指導を行う。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター 岩井 克己さん

3	5	○収集した貝殻やシーグラス、見つけた生き物について、わかったことや感想をワークシートにまとめて紹介する。【生活】	○ワークシート
4	6～8	○「海の中のせかい」（ひかりのプレゼント）のうちわ作りをする。【図工】 ・見たこと・さわったこと・聞いたこと・思ったことなどを思い出しながら制作する。	○準備物 ひかりのプレゼント、はさみ

#### 4. 他教科等との関連

- 国語科「スイミー」
  - ・登場人物や海の生き物に関心を持つ
  - ・お話を読んで、紹介する文章を書く。
- 図工科「スイミー」
  - ・タブレット（ビスケット）をつかってスイミーや海の中の生き物など海の中の様子を表現する。
- 図工科「海の中のせかい」
  - ・ビーチコーミングでの体験を思い出しながらうちわの制作をする。
- 生活科「ちりめんモンスターを探せ」

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

ビーチコーミングの活動を通して、海や海辺に生息する生き物について興味・関心を持つことができる

##### (2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○ビーチコーミングについての話を聞く。	○安全面に配慮する。 ・収集したり観察したりするポイントを伝える。
25	○浜辺で見つけたものや、打ち上げられた漂流物を収集したり観察したりする。	
10	○ふりかえりをする。	○次時の活動に意欲を持つことができるよう促す。

## 6. 成果と課題

- ・「ちりめんモンスターを探せ」では、資料の写真と見比べながら興味を持って生き物を見つけることができた。また、身近にある尾崎の海や大阪湾にいる生き物について知ることができた。探し出したちりモンをカードに貼り、1学期の個人懇談会の際に展示して保護者の方にも活動を知ってもらうことができた。
- ・1年生の時にビーチコーミングに行っていることもあり、海辺に生息している生き物の名前をよく知っていた。貝殻やシーグラスなどを収集したり観察したりする活動に、最後まで意欲的に取り組むことができた。
- ・これまでの学習を想起しながら、楽しく「海の中のせかい」のうちの制作活動をすることができた。

### 「ちりめんモンスターを探せ」より



### 「ビーチコーミング」より



3年

## 漁師さんの仕事のひみつをさがそう

阪南市立尾崎小学校

### 1. 単元目標

- ・尾崎の漁業について調べる学習を通して、風土や気候がとれるものと関係していることを理解することができる。
- ・地域の海と人との共生について考え、自分にできることを見つけようとする。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

- ・課題解決のために、適切な方法を選んで調べることができる。
- ・本やインターネット・インタビューなどから得た知識を理解することができる。
- ・適切な話し方でたずねることができている。

#### ○思考・判断・表現

- ・漁師さんの仕事の工夫をまとめ、学級新聞づくりを通して適切に表現している。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・学習を見直したり振り返ったりして、地域の海とそれにかかわる仕事に興味・関心を持ち、自然環境について自分にできることを見つけようとする。

### 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	3	○漁師さんの仕事の工夫を知る ・漁師さんの仕事について調べる(2時間) ・漁港へ行き、漁師さんの仕事を見る(1時間)	○国語科で学んだ「仕事のくふう、見つけたよ」を想起させ、あくまでも工夫に着目させるよう促す。
2	3	○漁師さんの仕事の工夫を聞く ・調べたこと・見たことからインタビューする内容を考える(1時間)(本時) ・インタビューの練習をする(1時間) ・漁師さんの仕事の工夫についてインタビューする(1時間)	○インタビューする際にどのようにすればうまくいくかを確認しまとめさせる。 ☆尾崎漁業協同組合
3	3	○見たこと・聞いたことをまとめる ・見学したことや聞いたことをまとめる(3時間)	○誰に伝えるかを意識して効果的に伝わるように新聞づくりを行う。

### 4. 他教科等との関連

- 国語科「仕事のくふう、見つけたよ」

- ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。

○社会科「わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと」

- ・生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもっておこなわれていることを理解する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標／副読本活用のねらい・効果

漁業について調べ、見たことから、インタビューする内容を考える。

(2) 本時の学習過程

(分)	学 習 活 動	指導上の留意点	副読本の活用の仕方／副読本の活用の留意点
10	<p>前時までを振り返る。</p> <p>「漁師さんの仕事についてわかったことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「漁師さんの仕事は、毎朝早くから行っています。」</li> <li>●「船で大きな網を使って、一気に魚をとっていました。」</li> </ul> <p>「漁師さんの仕事には、どのようなくふうがあると思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「重い網をあげるときは、機械を使っていると思います。」</li> <li>●「雨などで漁に出られないときは道具の整理などをしていると思います。」</li> </ul> <p>めあてを確認する。</p> <p>漁師さんの仕事のひみつを引き出すじゅんびをしよう。</p>		<p>○「はんなんの海」を読み、尾崎港の漁師さんの仕事について振り返る。</p>
30	<p>○インタビューする際の注意事項を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「丁寧な言葉を使った方がいいと思います。」</li> <li>●「長い質問ではなく、短くわかりやすいものの方がいいと思います」</li> <li>●「どんなやいつなどの言葉を使って、しつもんをした方がいいと思います。」</li> </ul>	<p>○インタビューするときに注意しないといけないことを子どもたちから出させたい。</p> <p>○班で考えさせる。</p> <p>○国語科で学習した「5W1H」を活用</p>	

	<p>質問を考える。</p> <p>考えた質問を原稿用紙にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じこしょうかいを入れる。</li> <li>・しつ問は短く。</li> <li>・ていねいな言葉を使う。</li> <li>・「いつ」や「どんな」などの言葉で聞くようにする。</li> </ul> </div>	<p>させ, ワークシートにまとめさせる。</p> <p>○質問を考えた班から, 原稿用紙にまとめる。</p> <p>○注意事項を確認し, 原稿用紙に質問の内容をまとめさせる。</p>	
5	<p>○振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに振り返りを書く。</li> </ul>		

## 6. 成果と課題

本単元では、国語科でおこなった話し合い活動を取り入れることで、海洋教育と他教科を関連付けることができたと考える。子どもたちは、話し合う活動やインタビューをする活動に取り組むことで、話す・聞く力をつけながら、自分たちの町にある漁港やまたそこで働く人びとの仕事について知ることができた。

漁港があることを知らなかった児童もおり、授業の振り返りから、漁港や漁師の方々への興味や関心を高めることができたように感じる。

今回の授業を通して培った意欲や関心を今年度で終わるのではなく、次年度以降の取り組みにも活かしていけるように引き継いでいきたい。

4年

阪南の水辺へ、レッツゴー！！！！

阪南市立尾崎小学校

### 1. 単元目標

自分たちが住んでいる阪南の海や川での生き物の観察活動を通して、阪南の水辺の豊かさを  
知り、自然環境を守るために自分たちにできることは何か考えることができる。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

- ・校区の海や川へ行き、そこに生息している生き物の観察を通して、自分たちの日々の暮らしが地域の環境に与えている影響について知ろうとしている。
- ・食品ロスについて理解を深め、食品ロス削減と環境保全の関係を調べようとしている。

#### ○思考・判断・表現

- ・阪南の海や川を守っていくために、自分たちにできることを考えることができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・海や川へ実際に行き、活動することを通して、地域の海や川に関心を持ち、自然環境を守るために自分たちにできることは何か考えることができる。

### 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1～14	○「健康な暮らしを守る仕事」（社会科） ・ごみのしよりと活用 ごみ処理の仕組みや再利用などについて学び、ごみを減らすために自分たちにできることを考える。 ・くらしをささえる水 日常生活で使用した汚水、そして雨水等を含めた下水は、地球の環境保全のために、どのように処理されているのか知り、自分たちにできることについて考えることができる。	・実際にごみ処理場を撮影してきたDVDを視聴し、ごみ処理の様子について学習する。  ・下水処理場の出前授業で、実際に汚れた水をきれいにする体験を通して、日常生活で出た汚水を処理する大変さについて学習する。
2	15～16	○海洋教育オリエンテーション（総合的な学習の時間） ・校区の海にいる生き物について学習する。	○ゲストティーチャーを招いて、アマモが海の生物たちにとっての良い住処であり、守り育てて

		中でもアマモが海の生物たちにとって大切な存在ということを知り、守り育てていくことの大切さについて学ぶ。	いくことの大切さに気づく ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター 岩井 克己さん
3	17	「食べ物の声を聞こう」（総合的な学習の時間） ・食品ロスについての理解を深め、食品ロス削減のために何ができるのか、自分の問題として考える。	○恵方巻やクリスマスケーキが大量に廃棄されている写真や動画「のこりものがたり」を見せることで、食品ロスの問題について実感を持たせる。
3	18～19 (本時) 20～21	○水辺の学校（海）  ○水辺の学校（川）	○水辺は楽しいことがたくさんあるが、危険もあることを具体的に伝える。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター 岩井 克己さん  ○いろいろな生き物を実際に見つけることで、海や川の豊かさを知り、守ることの大切さに気付くようにする。 ☆男里川環境保全委員会
3	22～25	○まとめとふりかえり ・実際の活動を通して、水辺の環境を守る大切さについて自分たちにできることを発表する。 ・食品ロス削減の大切さを周りの人たちに知らせるためのポスターを描く。	○海や川の環境を守っていくために、自分たちにできることについて考え、意見交換する。  ○食品ロスについてのポスターをつくり、周りの人たちに食品ロス削減の大切さについて知らせる。そして、そのことがSDGsの目標にもつながることを示唆する。

#### 4. 他教科等との関連

##### ○社会科「健康な暮らしを守る仕事」

- ・ごみの処理の仕組みや再利用などについて学び、ごみを減らすために自分たちにできることについて考える。
- ・日常生活で使用した汚水や雨水等を含めた下水処理の仕組みについて学び、下水道の役割が水質保全だけでなく、多岐にわたっていることについて学ぶ。

##### ○図画工作「食品ロス削減ポスターをかこう」

- ・食品ロスについて現状について理解を深め、食品ロス削減の大切さを周りの人たちに知らせるためのポスターを描く。

## 5. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・安全に気をつけて活動する。
- ・阪南の海にはいろいろな生き物がいることを知る。
- ・海にいる生き物を守るために自分たちにできることを考えることができる。

### (2) 本時の指導計画 (2 時間)

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○これからの活動について注意点などを聞き、活動に備える。	・楽しいことがたくさんあるが、危険なこともたくさんあることについて、再度確認する。
70	○海に入り、いろいろな生き物を採集する。 ・いろいろな生き物を採集する。 ・事前に設置いてくれていた地引網を引き、かかった生き物を観察する。	・安全に気をつけて活動するよう声をかける。 ・自分が採集したものだけでなく、友だちが採集したものについても一緒に観察するよう声をかける。
10	○まとめとふりかえり ・活動を通して、豊かな阪南の海を守るために自分たちにできることについて考え、意見交換する。	

## 6. 成果と課題

- ・水が暖かかったり、冷たかったり、とても不思議でした。とても大きなカニがいて、びっくりしました。この海がなくなったら、人は生きていけなくなるので、きれいにしたり、自分にできることをしたりしたいと思いました。
- ・アマモの近くには、いろいろな種類の魚がいました。知らない種類の魚がいました。カニをさわられて、うれしかったです。
- ・海はこわいし危ないところだと思っていたけど、今日行って、わかめ、魚、カニなど、いろいろな生き物がいて、海はこんなに楽しいとは思いませんでした。
- ・小さい魚や大きい魚を友だちがバケツに入れていたので、うらやましかったです。海はきれいな海でいてほしいです。
- ・浅いところにこんなに魚や生き物がいることを知った。鳥がいっぱいいて、びっくりしました。ワカメがたくさんでびっくりしました。ごみが海に増えないようにしたいです。

5年

海とともに生きる

阪南市立尾崎小学校

### 1. 単元目標

○漁港で働く人々の海と共に生きる姿を通して、自分たちの町にある漁港や大阪湾での漁業、海の文化や歴史に関心を持ち、わが町の誇りとしてとらえ海と関わるができるようにする。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

「漁港での仕事」「漁港で働く人々」について調べたことを通して、自分たちの暮らす町と海が密接に関わっていることを理解する。また、漁業が昔から自分たちの暮らす町を支える産業であることを知る。

#### ○思考・判断・表現

漁港で働く人々の様子や仕事を、見学や聞き書きを通して知ったことを、自分たちの暮らす町と海との関わりについて、新聞やスライドなどの表現物に表す。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

漁港で行われている漁法や漁師さんの仕事に関心を持ち、知りたいことや疑問に思ったことを積極的に調べ、自分たちの暮らす町に誇りをもつ。

### 3. 単元の指導計画（全17時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1～2	<b>尾崎漁港を知る</b> ○校区に広がる尾崎の海で昔から営まれてきた漁業について漁港を見学し、尾崎の海や漁師という仕事に関心を持つ。(3)(2・3/3 本時) ・私たちの海でこんな魚がとれるんだ ・せりってどういう雰囲気で行われるのかな。	※漁港見学前に、事前に尾崎漁港ではどのような漁法で漁をしているのか、その漁法でどんな魚がとれるのかなどについて考えさせておく。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造センター 岩井 克己さん
2	3～12 (本時)	<b>海で働くことを知る</b> ○漁師さんへ聞いてみたいことを考える。(2) ・漁師さんになった理由は何だろう。 ・漁師さんの仕事をしていてよかったことは何だろう。	○社会科の学習において、漁業の抱える問題点や漁法の種類について事前に学び、漁港見学の際に知ったことなどをもう一度想起させておく。

		<p>○漁師さんへ聞き書きをする。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁師さんの仕事ってすごいなあ。</li> <li>・魚をとるってとても大変なことなんだな。</li> </ul> <p>○聞き書きしたことをスライドにまとめ伝える。(4)</p>	<p>○国語科「きいて、きいて、きいてみよう」で学んだインタビューの仕方を確認しておく。</p> <p>☆NPO 法人 共存の森ネットワーク 吉野 奈保子さん</p>
3	13～15	<p><b>海で育てる</b></p> <p>○アマモの苗床づくりをする。(1) 6年生が採取したアマモの種を海に植える。</p> <p>○わかめの種糸付けをする。(1) 尾崎漁港で行われているわかめの養殖を体験する。</p> <p>○わかめの収穫を行う。(1) 種糸付けをおこなったわかめを収穫する。</p>	<p>○海に植えるだけではなく、学校内に水槽を用意し、成長を見られるようにする。</p> <p>☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造センター：岩井 克己さん</p>
4	16・17	<p><b>海とともに生きる(2)</b></p> <p>○一年の活動をふり返る。 一年間をかけておこなってきた活動をふり返り、「海とともに生きていく」ために何が大切かを考える。</p>	<p>○今年一年の活動を通して、地域に海があることやその海で働くことの大切さを考えさせる。</p>

#### 4. 他教科等との関連

○国語科「きいて、きいて、きいてみよう」

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えあう内容を検討する。
- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。

○社会科「水産業のさかんな地域」

- ・水産業に従事している人の工夫や努力、現在の問題点や今後に向けての取り組みなどについて理解する。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

- ・漁港で働く方の姿を通して、漁業の仕事の大変さややりがいを知る。
- ・漁港で働く事について知り、自分たちの暮らす町と海が密接に関わっていることを理解する。

##### (2) 本時の指導計画

時間 (分)	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○漁師さんへのあいさつ グループの代表が、それぞれの漁師さんに学習でお世話になることを伝える。	○ていねいな言葉を使い、相手の顔を見て お願いすることを確認する。 ○質問内容やs 津門の順番の確認。 ○質問用紙が用意されているか確認する。
35	○漁師さんへの聞き書き インタビューー、聞き取り班という自分の役目を果たす。	○質問して終わりではなく、「聞き書き」 として取り組んでいるか確かめる。 ○聞き逃しがないように、グループで協力 してメモを取るように声かけを行う。

5	○まよめのあいさつ 教えていただいたことへの感謝を伝え、これからの学習の見通しを持つ。	○質問させていただいたことの謝意と感想を伝えさせる。
---	--	----------------------------

## 6. 成果と課題

社会科の学習で、「漁業」というものがどういうものなのかを学習した。その中で、自分たちの町にある「尾崎の海」についての興味が広がり、漁港見学やアマモやワカメの種つけを通して、より詳しく学びたいという気持ちをもつことができた。そして、漁師さんから漁のことや海のことについて、直接教えていただく「聞き書き」に取り組んだことで「漁師」という仕事のすばらしさと厳しさを知ることができた。しかし、自分たちの暮らす町と漁業との関わりの強さを結び付けられた児童は少なかったと感じる。これから、「1年の振り返り・まとめ」の学習に取り組んでいくが、学んだことを他者に伝えていく中で、「漁業」が自分たちの生活の身近にある、伝統的な素晴らしいものだということを理解して行ってほしい。

6年

## 阪南市の海ってすごい！

～アマモ場に生息する生物の多様性～

### 阪南市立尾崎小学校

#### 1. 単元目標

自分たちの住むまちにある尾崎の海での生き物観察やアマモの再生活動を通して、生物の多様性や海の豊かさを知り、海辺の環境と人々の生活との関わりについて考え、自然環境を守る実践力を養う。

#### 2. 単元の評価基準

##### ○知識・技能

大阪湾の中で、阪南市の海岸が数少ない自然海岸であることや、実際に尾崎の海の生き物を観察したり、アマモ場の再生活動に携わったりすることで、生物の多様性や海の豊かさを知る。

##### ○思考・判断・表現

自分たちの生活における環境問題やその解決のためにできることを効果的に発信しようとしている。

##### ○主体的に学習に取り組む態度

身の回りの環境問題に対して、意欲的に粘り強く他者と関わりながら課題解決に取り組もうとしている。

#### 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1～3	<p>○アマモの苗床移植</p> <p>・昨年度から学校で育てていたアマモを、今までアマモ場のなかったところへ移植を行う。</p> <p>○アマモの花枝採集</p> <p>・アマモ場を増やすために、花枝を採集する。 (事後に花枝から種子を選別する予定であったが、種子が少なく未実施。)</p> <p>○生き物観察</p> <p>・アマモ場で生息する生物を探す。 ・地引網体験を通して、様々な生物について知る。</p>	<p>○日常的にアマモの観察を行わせる。</p> <p>☆NPO 法人 大阪湾沿岸環境創造研究センター 岩井 克己さん</p> <p>○安全に活動できるように声かけをする。</p> <p>○見つけることができた生物について写真に撮ったり、説明してもらったりする。</p>

2	4 (本時)	○アマモの花枝種子選別 ・採集したアマモの花枝から種子を選別する。	○花枝の種子を見分けることができるように、机間指導を行う。
3	5  6	○SDGsについて学習する。 ・SDGsの17目標について学ぶ。 ・海洋教育との連携を図り、14「海の豊かさを守ろう」を中心にタブレットにまとめ、環境を守ろうとする意識を高める。	・SDGsについて調べる際には現状と自分に何ができるかを考えさせる。

#### 4. 他教科等との関連

##### ○国語科「私たちにできること」

- ・身の回りにある問題について自分たちで解決する方法を考え、他者へ解決方法を提案するための文章を書く。
- ・効果的に伝えるために、タブレットのスライドを用いる。

##### ○理科「生物どうしのつながり」「自然とともに生きる」

- ・生物のつながりについて興味・関心をもち、生物と環境についての考えをもつことができるようにする。
- ・身近な環境問題を調べ、生物と環境との関わりについての考えをもつことができるようにするとともに、自然を大切にしようとする態度を育てる。

##### ○社会「世界の中の日本とわたしたち」

- ・SDGsについて、自分の興味関心のある目標を調べることを通して学ぶ。
- ・特に「14 海の豊かさを守ろう」については海洋教育と関連付けて重点的に扱う。

##### ○道徳「白神山地」

- ・白神山地の現地の方々取り組みから、自分たちの地域にあるよさについて考えた。その中で、特に阪南市の海を大切に守っていくために、自分たちにできることを考えた。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

アマモの育つ豊かな海にしていくために、アマモの花枝から種子を選別し、次年度の花枝移植につなげる。

##### (2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5分	・岩井さんから花枝の趣旨について説明を受け、種子の選別について学ぶ。	
30分	・3人グループになり。花枝の種子選別を行う。 ・花枝の種子を選別することの大切さについて交流する。	○花枝の趣旨ではないものを選ばないよう、班の中で教え合えるようにする。

10分	・岩井さんから今後の海洋教育についての講話を聞く。	
-----	---------------------------	--

## 6. 成果と課題

- ・昨年度実際に行った苗床の移植が、この種子選別という作業を経て行われてきたことを改めて感じる事ができたようである。海洋教育は単年ではなく尾崎小学校の学校全体を通して行っていることだと考えることができた。
- ・自分たちが住む尾崎、ひいては阪南市について、自然が豊かな町であり、大切にしなければならないものであると考える児童も多くいた。
- ・意欲的に海洋教育に取り組もうとする児童がいた。自主学習の中で海洋教育にかかわる内容に取り組むことができていた。それは、継続して海洋教育に取り組んできた成果といえる。

令和4年度 海洋教育年間指導計画		阪南市西鳥取小学校											
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生				ビーチコーミング(浜辺の生き物探し)	タコとのふれあい								
	関連教科・学習等			生活/図工(石ころアート)	生活								
2年生					まちたんけん(海のこと)							チリメンモンスター探し	
	関連教科・学習等				生活							生活	
3年生					海蔵おしぼ教室				アマモ活動引継ぎ アマモの苗床づくり・播種			魚調べ	
	関連教科・学習等				図工				理科・総合			総合	
4年生				アマモ花枝採取・生き物一斉調査	海の生き物飼育・アマモ属の生き物紹介		アマモ種子選別 海洋ごみ調査		アマモ活動引継ぎ			海若すき体験	
	関連教科・学習等			総合/社会「ごみの処理と活用」	総合/社会「暮らしを支える水」		総合/社会「暮らしを支える水」		総合/国語「新聞を作る」			総合	
5年生				田植え 漁港の座学	漁港見学		臨海学校 ウミホタルの観察	稲刈り	川・山を活かした海洋教育	ワカメ種系付け		ワカメ収穫 ワカメを使った調理実習	
	関連教科・学習等			総合/社会科「農業・漁業について」	総合/社会科「漁業について」		総合/社会科「漁業について」	総合/社会科「漁業について」	総合	総合/社会科「漁業について」		総合/家庭科「調理実習」	
6年生					給食アイデア募集					漁師さんからの聞き書き		実践報告会	
	関連教科・学習等				家庭					総合/キャリア教育		総合/国語	

# 1年 単元名 ビーチコーミングを楽しもう

阪南市立西鳥取小学校

## 1. 単元の目標

自分たちの住んでいる地域の浜辺に打ち上げられた漂着物や見つけた生き物を収集したり、観察したりすることによって、海に親しむ心情を育てる。

## 2. 単元の評価規準

○知識・技能

西鳥取の海に生息する生き物や海岸にある貝や石などについて、本やパンフレットを使って調べる。

○思考、判断、表現

ビーチコーミングを行い、収集したものや見つけたものについて、感じたことやわかったことを他者にわかりやすく伝えられるように工夫して表現する。

○主体的に学習に取り組む態度

西鳥取の海や浜辺にいる生き物や収集物に興味をもち観察している。分かったことや、調べたことをまとめて友だちに伝え合っている。

## 3. 単元の指導計画(全4時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○阪南市の海について考える。 ・海での体験について話し合うことや、阪南市の海に生息する生き物が載っているパンフレット、本を見て生態系を知る。【生活】	○児童が海の生き物について調べられるように、図鑑などを準備する。
2	2  3 (本時)	○ビーチコーミングを行う。 ・身近な海に生息する生物を知ったり、海岸などに打ち上げられた漂着物を収集し、観察したりする。【生活】 ・収集した貝殻やシーグラス、見つけた生き物についてわかったことや感想をワークシートにまとめて紹介する。【生活】	○海辺での活動の危険な行為や注意点を事前に指導する。 ※準備物 カメラ ☆クニヤ岩井氏に講師依頼 ○ワークシートに記入する観点を伝える。(見たこと・さわったこと・におったこと・聞いたこと・感じたこと)
3	4	○持ち帰った石で石ころアートをする。【図工】 「はんなんのうみ」PIO	○準備物 ピグマックス

#### 4. 他教科等との関連

○生活科「みつけたひみつをつたえよう」

・浜辺で見つけた貝殻やシーグラス、生き物について観察したり、調べたりしてわかったことをワークシートにまとめて友だちに紹介する。

○図工科「工作」

・海岸で拾った石で石ころアートをする。

#### 5. 本時の展開

(1) 本時の目標

収集した貝殻やシーグラス、生き物を観察したり、調べたりしたことをワークシートにまとめて紹介する。

(2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	副読本活用の仕方／副読本活用の留意点
10	○ビーチコーミングの活動を振り返る。	○楽しかったことや思ったことを出し合わせる。 ○ビーチコーミングの写真を見せて、当時の様子をすぐわかるようにする	※プロジェクターの準備 「はんなんのうみ」P10を映して見せる。
10	○ビーチコーミングの感想や見つけたものを調べてわかったことをワークシートに書く。	○ワークシートに記入する観点を伝える。(見たこと・さわったこと・におったこと・聞いたこと・感じたこと)	
20	○活動のことをまとめ、友だちに紹介したいことを話し合う。 ・見たこと ・さわったこと ・におったこと ・聞いたこと ・感じたこと	○ワークシートに記入した観点ごとに発表させる。	
5	○本日の活動をふりかえる。	○ふりかえりワークシートの活用。	

#### 6. 成果と課題

・実際に地域の海に出かけて、海にあるものを拾ったり、生き物を観察したりすることで、地域の海に関心をもつことができた。家庭から地域の海に行ったことがない子もいたので、良い機会となった。

- ・ガラスは時間がたつと、角がとれてシーグラスになることを知らない子が多く、興味をもって探していた。
- ・自分で拾った石を使って石ころアートを楽しんで行うことができた。
- ・貝殻やシーグラスをたくさん集められたら、それらを使って、写真立てなどを製作できたらいいなと思っていたが、あまり集めることができなかつたので、実施しなかつた。

## 2年 単元名 海の生き物について調べよう

### 阪南市立西鳥取小学校

#### 1. 単元の目標

ちりめんモンスター探しの体験活動を通して、海の生き物に関心を持つことができる。

#### 2. 単元の評価規準

##### ○知識・技能

・西鳥取の海に生息する生き物やちりめんモンスター探して知った魚を、本やパンフレットを使って調べることができる。

##### ○思考・判断・表現

・ちりめんモンスター探しの体験活動を新聞や図鑑にまとめる際に、感じたことやわかったことが他者に伝わりやすくなるように表現を工夫できる。

##### ○主体的に学習に取り組む態度

・海の生き物などとのふれあいを通して、海の自然に親しみ、進んで西鳥取の海に関わることができる。  
・海の生き物に関心を持ち、進んで調べることができる。

#### 3. 単元の指導計画(全5時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○海で生活している魚について話し合う ・知っている魚の名前、食べたことのある魚について友だちと話し合う。 ・給食や家で食べているちりめんじゃこについて話し合う。 ・ちりめんじゃこに小さな生き物が混ざっていることを知る。	☆TEAM GASAの河原氏、前田氏からちりめんモンスターについて話を聞く。 ○写真をよく見て形や色の違いに気づくように声をかける。
2	2・3	○ちりめんモンスター探しをする ・ちりめんじゃこの種類について知る。 ・ちりめんモンスターについて知る。 ・ちりめんモンスターを「魚」、「エビ・カニ」、「タコ・イカ」の仲間に分ける。 ・仲間分けしたちりめんモンスターをボンドでワークシートに貼る。	○ちりめんモンスターでの活動から自分の考えを持つように伝える。

3	4 (本時)	<p>○ちりめんモンスター探して感じたことを話し合い、他の人に伝える方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちりめんモンスターでの活動を振り返る。</li> <li>・見つけたことやわかったこと、知りたいことなどを書く。</li> <li>・活動のことをまとめ、友だちに紹介したいことを話し合う。</li> </ul> <p>○ちりめんモンスター探して感じたことを話し合い、他の人に伝える方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はんなんのうみ」P28・P29を読み、紹介の仕方について考える。</li> </ul>	<p>○紹介したい内容に応じて、ワークシートや調べた内容から新聞や図鑑をつくらせる。</p>
4	5~9	<p>○ちりめんモンスター新聞や図鑑をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのワークシート等を活用する。</li> <li>・紹介したいモンスターについてされにくわしく調べ、わかりやすくまとめる。</li> </ul>	<p>○自分のグループや他のグループが発表したところからそれぞれの発表内容の良い点を考えさせる。</p>
5	10	<p>○作った新聞や図鑑を見せ合い、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちりめんモンスターについて調べたことを発表し合おう。</li> </ul>	<p>☆TEAM GASAの河原氏、前田氏からちりめんモンスターについて話を聞く。</p> <p>○写真をよく見て形や色の違いに気づくように声をかける。</p>

#### 4. 他教科等との関連

○生活科「いきものをさがそう」

- ・校区の海に行き、生息している海の生き物について知る。

○図工科「工作」

- ・ちりめんモンスターの活動を通じて、形の特徴を捉えて、海の生き物を粘土で作成することができる。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

ちりめんモンスター探して感じたことを話し合い、他の人に伝える方法を考える。

##### (2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	副読本活用の仕方／副読本活用の留意点
10	○ちりめんモンスターでの活動を振り返る。	○楽しかったことや思ったことを出し合わせる。	

10	○見つけたことやわかったこと、知りたいことなどを書く。	○ワークシートの活用	
10	○活動のことをまとめ、友だちに紹介したいことを話し合う。 ・カタクチイワシとマイワシの違いについて。 ・タコとイカのすみかの違いについて。 ・季節によって変わる、獲れる魚について。	○ワークシートや生き物マップを参考に他の人に教えたいことや伝えたいことを考えられるようにする。	
10	☆紹介する方法を考える。 ・新聞にして紹介する。 ・図鑑にして紹介する。	○「はんなんのうみ」に紹介されているこれまでの海洋教育の取り組みの発信を参考に、自分たちができる紹介の仕方を考える。	○「はんなんのうみ」P28・P29を読む。
5	○本日の活動をふりかえる。	○ふりかえりワークシートの活用。	

## 6. 成果と課題

- ・ちりめんモンスター探しては、意欲的に仲間分けをする児童が多く、興味をもって取り組む姿が見られた。
- ・TEAM GASAの河原氏、前田氏からちりめんモンスターについて話を聞くことで詳しく魚のことを知ることができた。
- ・「はんなんのうみ」でこれまでの取り組みを知ることで、これまでの紹介方法について知ることができた。
- ・紹介するために、ちりめんモンスターのことを調べるが、情報が少ないので紹介する内容が少ない。

# 3年 アマモについて分かったことを伝えよう～アマモってすごいわ～

## 阪南市立西鳥取小学校

### 1. 単元の目標

- アマモについて知り、アマモを育てることに関心をもつ。
- アマモの苗床づくり、海藻おしば体験、観察活動を通じて、地域の海を大切にしようとする気持ちをもつ。
- アマモについて興味をもったことについて調べ、言語化する。
- アマモについてまとめたことを2年生に伝える。

### 2. 単元の評価規準

#### ○知識・技能

- ・上級生からの引継ぎや講師の先生からの話、また、調べ学習を通して、西鳥取の海に生息するアマモについて知識を高められる。
- ・アマモの苗床の成長記録や、本やインターネットを活用しての調べ学習から、観察の手順、まとめる方法が身についている。

#### ○思考・判断・表現

- ・アマモの苗床づくりや海藻おしば体験などの活動を行う際、より深く探求するための必要な手立てを考えられる。
- ・アマモの苗床づくりや海藻おしば体験などを通して、もっと探求したいと感じたテーマについて調べ、2年生にわかりやすく伝えるための方法を工夫し、表現できる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・地域の海への興味・関心を高め、より深く学ぼうとする。
- ・お互いに学んだことや感じたことを伝え合うことで、これからも共に地域の海を守っていこうとする。

### 3. 単元の指導計画(全13時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○アマモについて知ろう 「はんなんのうみ」(P4～p9)を読む。	○わかったことを話し合う。
2	2	○海藻おしば体験をする。 ・海藻と海草の違いについて知る。 ・海藻の色の特徴を生かして、海藻おしばを製作する。	○海藻の色の違いについて注目させる。 ○海藻おしば体験をすることで、海の生き物や地域の海への関心を高めさせる。

3	3	<p>○アマモの種をまこう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工海水をつくる。</li> <li>・種を植えるときの注意点を聞き、ポットに土を入れ、その中に種を植える。</li> <li>・人工海水の中に沈める。</li> </ul> <p>○アマモの育ちを観察しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマモが芽を出す様子や、成長する様子を記録する。(記録用紙・写真)</li> </ul>	<p>☆チームガサの河原氏からアマモの種の植え方を教わる。</p> <p>○アマモとはどのような海草であるのかを知らせる。</p> <p>○アマモがどのように成長していくのかを継続して観察させる。</p>
4	5 ～ 10	<p>○アマモについて調べたことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマモについてもっと知りたいテーマは何かを考える。</li> <li>・本やタブレットを使って調べる。</li> <li>・調べてわかったことを言語化する。(新聞・スライド・劇など)</li> </ul>	<p>○2年生にどうすれば分かりやすく伝えることができるかを考え、工夫させる。</p> <p>○国語科「わたしたちの学校じまん」と連携して取り組ませる。</p>
5	11 (本時) 12	<p>○アマモについてまとめたことを伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生に3年生の教室に来てもらい、まとめたことを伝える。</li> </ul>	<p>○相手を意識し、声の出し方やスピード、内容に気を配るよう助言する。</p>
6	13	<p>○次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生からアマモの活動報告を聞く。</li> </ul>	<p>○次年度の活動への関心を高めさせる。</p>

#### 4. 他教科等との関連

○国語科「わたしたちの学校じまん」

- ・相手を見て話したり聞いたりするとともに間の取り方に注意して話す。
- ・相手に伝わるように理由や事例などを挙げながら話の構成を考える。

○社会科「わたしたちの郷土」

- ・わたしたちの市の様子の学習で「海に近いところ」の西鳥取の海の様子を学習する。
- ・昔の海の様子と今の海の様子の違いを学習する。

#### 5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・アマモについてまとめたことを伝える方法を工夫し、わかりやすく2年生に伝える。

(2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	副読本活用の仕方／副読本活用の留意点
5	1 めあてを確認する		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>㊟アマモについてわかったことを2年生にわかりやすく伝えよう</p> </div>		
	2 伝え方で気をつけることを確認する	○2年生にわかりやすく伝える	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の大きさ、速さ</li> <li>・資料の見せ方</li> </ul>	<p>ために、声の大きさ・速さ・資料の見せ方に気を配るよう助言する。</p>	
20	<p>3 まとめたことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマモの観察記録や、海藻おしばの作品、調べ学習の内容をまとめた物を発表する。</li> <li>・新聞、スライド、劇</li> </ul>	<p>○伝える相手を意識させる。</p>	<p>○「はんなんのうみ」で調べたことを、2年生にわかるようにまとめたことを発表する。</p>
10	<p>4 感想を交流し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生に感じたことや初めて知ったことなどを伝えてもらう。</li> <li>・質問に答える。</li> </ul>	<p>○お互いに話しやすい雰囲気をつくるよう配慮する。</p>	
10	<p>5 アマモについてわかったことを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったことをまとめる。</li> <li>・海の学習でこれからどんなことを学習していきたいかを考える。</li> </ul>	<p>○これまで1年間の海洋教育を振り返らせ、これからどのようにそれを生かしていきたいかを考えさせる。</p>	

## 6. 成果と課題

### <成果>

- ・2年生で「チリメンモンスター」の活動を行い、3年生の1学期で「かいそうおしば」の活動をしてきたことで、児童は海の生き物について関心を持って取り組むことができた。
- ・2学期に「アマモの種付け」を行い、学校の水槽で観察したり少なくなった水を足したりする活動を行うことで児童は「アマモ」について関心を持つことができた。
- ・2年生に自分たちの1年間の取り組みを伝える活動の中で、取り組んできたことをふりかえり、調べ学習を行うことで今まで知らなかったことを知ることができた。
- ・改めて、阪南の海について考え、自分たちができることが何か、また取り組めることは何かを考えるきっかけになった。

### <課題>

- ・学習して分かったことやできることを考えるきっかけになったが、これからの自分や、今日からできることを実行するところまではつなげることができなかった。2年生に自分たちの活動を伝え、毎日アマモを観察し、世話をすることを通じて、興味関心を深め自らの行動につなげていくことができればと考える。

# 4年 アマモの大切さを伝えよう アマモ場の生き物を守ろう

## 阪南市立西鳥取小学校

### 1. 単元の目標

- アマモを育てることで、海を育むことの大切さを知る。
- 生き物の住処の重要性や環境保全について学ぶ。
- 1年間おこなってきたアマモ活動を下級生に引き継ぐ。

### 2. 単元の評価規準

#### ○知識・技能

- ・西鳥取の海に生息するアマモや浜辺の生物の生態について、上級生からの引継ぎや講師の先生からの話、調べ学習を通じて学んでいる。
- ・アマモの苗床の成長記録や浜辺の生き物調査から、観察や調べ学習の手順やまとめ方について身に付ける。
- ・海洋ゴミの特徴や種類、生き物に与える影響について学んでいる。

#### ○思考・判断・表現

- ・アマモの育成や生き物調査などそれぞれの活動を行う際、より深く探求するために必要な手立てを考えられる。
- ・アマモの育成や清掃活動、生き物調査を通じて知ったことや思ったことを他者に伝えるために、何を主たるテーマとするのか、また、必要な情報を精査し、より分かりやすく伝えるために工夫して表現できる。
- ・西鳥取の海を守るために自分たちができることについて、多くの人に伝える方法を考えることができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・西鳥取の海について知識を得る中で興味・関心を高め、より深く学ぼうとしている。
- ・お互いに学んだことや思ったことを表現しあい、交流することで、共に協力して環境保全学習に取り組もうとしている。

### 3. 単元の指導計画(全21時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1 2	○アマモについて学んだことをふりかえろう。 ・大阪湾の今と昔 ・アマモの役割	○「はんなんのうみ」をつかって、これまでの活動をふりかえらせる。

		<p>・アマモ場を守ることの大切さ</p> <p>「はんなんのうみ」P6~7</p> <p>○アマモを植える際の注意点や、アマモについてさらに知りたいことをまとめよう。</p> <p>・アマモ移植について岩井さんに教えてもらいたいことを考える。</p> <p>○安全に活動するために注意点を確認する。</p> <p>「はんなんのうみ」P56~61</p>	<p>○(株)ミクニヤ岩井氏への質問を考えさせる。</p> <p>○岩場での注意や、毒をもつ生き物についても伝える。</p>
2	3 4 5	<p>○阪南市の海について知ろう。</p> <p>・阪南市の海について知る。</p> <p>・どんな生き物がいるか知る。</p> <p>「はんなんのうみ」P42~49</p> <p>○アマモを植えよう</p> <p>・学校で育ててきたアマモを植える。</p> <p>・植える時の注意点や実際に生えているアマモの様子を見る。</p> <p>・アマモ場の生き物を採取する。</p> <p>・アマモ場で採った生き物をみんなで飼育し、他の学年の子にも興味を持ってもらう。</p>	<p>☆(株)ミクニヤ岩井氏からアマモの植え方を聞く。</p> <p>○アマモを植えると同時に、アマモ場の生き物を採取させ、学校で飼育させる。</p> <p>○生き物の特徴、エサ、住処などについてまとめさせる。</p>
3	6 7 8 9	<p>○アマモの種を採ろう。</p> <p>○アマモ場の生き物にふれよう。</p> <p>・アマモの花枝を採取する。</p> <p>・アマモの花枝を観察し、どんなところに育っているかを知る。</p> <p>・地引網を体験する。</p> <p>・浜辺にどんな生き物がいるのか観察する。</p> <p>○アマモの種子を選別して、3年生につなげよう。</p> <p>・以前採取した花枝からとった種をピンセットで一つずつ取り出す。</p> <p>・白いものや赤いものなど、種の違いを知る。</p>	<p>○海に引率し、アマモの花枝採取と生き物調査を行わせる。</p> <p>☆(株)ミクニヤ岩井氏に講師依頼 ※準備物(講師が持参)</p> <p>・防水デジタルカメラ(多数)</p> <p>・振り返りワークシート</p> <p>☆(株)ミクニヤ岩井氏に講師依頼 ※準備物(種子は講師が持参)</p> <p>・取分け用大皿・匙を各6</p> <p>・個人用小皿・ピンセットを各13</p> <p>・種入れ用大皿を6</p> <p>・振り返りワークシート</p>

4	<p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>16</p> <p>(本時)</p>	<p>○アマモ場を増やす以外に、海の環境を守る方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前アマモを植えに行った海岸の様子を思い出す。</li> <li>・ごみがたくさん落ちていたことに気づき、ごみが生き物の生態に与える影響について考える。</li> </ul> <p>○海洋ゴミ調査に出かけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸のごみ拾いに行く。</li> <li>・海岸にどんなごみが落ちているかを調べる。</li> <li>・大きいごみや危険なごみは写真で撮り、小さいゴミは拾う。</li> </ul> <p>○海洋ゴミについてみんなで調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち帰ったゴミを種類ごとに分別する。</li> <li>・持ち帰ったゴミのほとんどが、プラスチックごみだと気づく。</li> </ul> <p>「はんなんのうみ」P30~34</p> <p>○プラスチックごみが海の生き物に与える影響について調べる。</p> <p>はんなんのうみ」P35</p> <p><b>○海の生き物を守るために自分たちができることを考えよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋ゴミについて調べたことを発表する。</li> <li>・海の生き物を守るために自分たちがとりくめることをみんなで考える。</li> </ul> <p>はんなんのうみ」P62~63</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうやってみんなに伝えるか考える。</li> </ul>	<p>○アマモ以外に海を守る方法がないかを考えさせる。</p> <p>○ざるを用意し、砂の中にも含まれるマイクロプラスチックにも気づかせる。</p> <p>※準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ざる 軍手 ごみ袋 デジカメ</li> </ul> <p>○ゴミを分別してプラスチックごみが多いことに気づかせる。</p> <p>○タブレットや「はんなんのうみ」図書館の本など活用させる。</p> <p>○調べたことを、発表させる。</p> <p>○これまで体験したこと・調べたことから自分の考えを持つように伝える。</p>
5	<p>17</p> <p>~</p> <p>21</p>	<p>○海の生き物を守るために、みんなに協力してほしいことを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマモについてまとめる。</li> <li>・集会で行う劇を考える。</li> <li>・ポスターを作る。</li> </ul>	<p>○アマモのはたらきや、海の生き物を守るための活動について、グループに分かれて発表の準備をさせる。</p> <p>○「はんなんのうみ」や今までのワークシートを活用させる。</p>

	○後輩に引き継ぐ。 ・3年生に活動を紹介し、引き継ぐ。	○紹介する際原稿も作成させる。
--	--------------------------------	-----------------

#### 4. 他教科等との関連

##### ○社会科「下水のゆくえ」「ごみのしまつと活用」

- ・下水処理場のしくみを学ぶことで、現在の大阪湾がどのような環境になっているかをくわしく知る。
- ・生き物にとってすみやすい海の環境とはどのようなものかを考える。
- ・ごみ問題の現状を知り、ごみを減らすための取り組みについて考える。
- ・さまざまな種類のごみの処理方法について知る。

##### ○理科「地面を流れる水のゆくえ」「水のすがたとゆくえ」

- ・水が蒸発して水蒸気になったり、冷えて再び水になったりすることを学び、水が循環していることを学ぶ。山・川・海というように水が循環している中で、山の栄養が海に流れていることも意識させる。

##### ○国語科

- ・「新聞を作ろう」：アマモや海辺の生き物について新聞を作成する。

##### ○図工科

- ・海を守るためのポスターを作成する。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

- ・海洋ごみから海の生き物を守るための方法を出し合い、クラスのみんまで取り組めることを考える。

##### (2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	副読本活用の仕方／副読本活用の留意点
5	○海洋ごみについて調べたことを発表しよう。 ・ごみにはプラスチック製品が多い。 ・ごみは直接海に捨てなくても、陸に捨てられたものが、風や川の流れによって海に運ばれる。 ・海のごみは生き物に悪い影響を与えている。	○調べたことを、簡潔にまとめて発表できるようにする。	

20	<p>○海の生き物を守るために自分たちができていることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸のごみ拾いを定期的におこなう。</li> <li>・プラスチックの製品をできるだけ使わないようにする。</li> <li>・自分たちが調べたことを、多くの人に知らせる。</li> <li>・ポイ捨てをしないようにする。</li> </ul>	<p>○自分が調べたこと、友だちが発表したことをもとに自分たちができていることをまず自分で考える。(5分程)</p> <p>○自分の意見を発表し、みんなと交流する。</p> <p>○各グループで出た意見をまとめ、グループごとに発表する。</p> <p>○これまで自分が体験したこと、友だちの意見を聞いて感じたことから、理由をしっかりと考えて発表するように伝える。</p>	<p>○「はんなんのうみ」P30～35をふり返らせて、考えるヒントにする。</p> <p>○「はんなんのうみ」P62～63を読み、プラスチックごみの処理方法について考える。</p>
15	<p>○海の生き物を守るために、クラスのみんなでとりくむことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター、発表資料などをつくり児童集会などで知らせる。</li> <li>・お家の人用に手紙をつくる。</li> <li>・毎月1回は海岸のごみ拾いに行く。</li> </ul>	<p>○自分たちが無理なく、継続してとりくめる内容を意識させる。</p> <p>○自分たちだけでなく、周りの人達と共にできることを意識させる。</p>	
5	○本日の活動をふりかえよう。	○ふりかえりワークシートの活用。	

## 6. 成果と課題

- ・実際に海に出かけて、アマモを植えたり生き物を捕まえたりすることで海への関心をもつことができた。
- ・「海洋ごみ調査」では、意欲的にごみを拾って種類を調べたり、海洋ゴミの影響についてくわしく調べたり、多くの人に知らせようとする強い気持ちを持つことができた。

- ・学校の玄関でアマモ場の生き物を飼育をすることで、他学年の子どもたちや、保護者、地域の人に西鳥取の海について関心を持ってもらうことができた。ただ、海水魚を飼うのが難しく、多くの生き物を死なせてしまった。
- ・海を守るためにできることを考え、全校児童の前で発表し、みんなにも協力してもらえるように、チェックカードも作って活動することができた。
- ・「海洋ごみ調査」で多くのごみを拾ってきたが、処理の仕方に困った。

# 5年 単元名 にごった川の秘密 ～山・川・海の栄養のつながり～

## 阪南市立西鳥取小学校

### 1. 単元の目標

水は地球上で循環していく中で、栄養も同じように循環するというしくみが地球上の生命を支えているということを知り、海の環境を守るためには、「山・川・海のつながり」が大切であることに気づく。

また、栄養の中でも「フルボ酸」についてくわしく学び、実物にふれたり、学習園の野菜作りに活用したりすることで、山の栄養の大切さや素晴らしさを実感する。

### 2. 単元の評価規準

#### ○知識・技能

- ・水の循環から山・川・海がつながっていることを知り、山の栄養が川を通過して海に流れるという仕組みが地球上の生命を支えていることを理解している。
- ・山の栄養のなかでも「フルボ酸」という物質の効果や役割を知ると共に、陸上のごみが最終的に海に流れ着くということを知っている。

#### ○思考・判断・表現

- ・水・栄養の循環の仕組みを学ぶことで、自分たちの海の環境を守っていくには、何が必要であるかを考え、ポスターやプレゼンテーションでまとめ、表現することができる。
- ・海洋ごみ対策を考える際には、「陸上のごみは全て海にたどりつく」という視点を持って考えることができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・自分から進んで、西鳥取の海の環境を守るための新たな方法を考えたり、「フルボ酸」をつかった野菜作りをする中で、その効果や役割を進んで調べ、観察したりすることができる。

### 3. 単元の指導計画(全9時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
第1次	1	<p>○これまで学習したことをふりかえろう。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度の学習で、「西鳥取の海」の環境面における問題点と、海の生き物を守るために自分たちが取り組んだことをふりかえる。</li></ul> <p>「はんなんのうみ」 P32～35</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・理科の「流れる水のはたらき」で学んだことをふりかえる。</li></ul> <p>(侵食・運搬・堆積)</p>	<p>○昨年度の取り組みの内容を振り返りやすくするために、グループで話し合わせたり、活動の様子を撮った写真や動画を見せたりする。</p>

第2次	2	<p>○ワカメの色がよくなって、たくさん採れた理由を考えよう。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はんなんのうみP20の子どもたちのセリフを読んで考える。</li> <li>・大雨などで土砂が海に流れ込むことでどのようなことが起きるかを考える。</li> </ul> <p>「はんなんのうみ」 P20~21</p>	<p>○大雨前後の河口付近の写真と、成長したワカメ、あまり成長していないワカメの写真を見せて、対比できるようにする。</p>
	3	<p>○山の栄養と循環について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山の栄養の種類や、山・川・海の栄養のつながりについて知ろう。</li> </ul> <p>「はんなんのうみ」 P22</p>	<p>○山にふくまれる主な栄養の種類について紹介する。</p> <p>○絵本「山のえいよう」を活用する。</p>
	4 5	<p>○「フルボ酸」について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「フルボ酸」の効果・役割</li> <li>・「フルボ酸」の作り方</li> <li>・「フルボ酸」を使ったメロンの育ち</li> </ul> <p>「はんなんのうみ」 P24~27</p>	<p>○実際に学習園の野菜作りに活用し、観察記録を取らせ、成長の違いに気づかせるようにする。</p>
第3次	6 ~ 9	<p>○西鳥取の海を守るための、他の方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山の栄養を増やすための取組みを調べよう。</li> <li>・自分たちで取り組めることを考えてまとめよう。</li> </ul> <p>「はんなんのうみ」 P23</p> <p>・舞小学校の取組みを学ぼう。</p>	<p>○昨年度取り組んだことから、更に発展させて取り組めることについて考えさせる。</p> <p>○模造紙やポスター、タブレットなどを使ってまとめさせる。</p> <p>○「はんなんのうみ」P23のQRコードを活用して調べさせる。</p> <p>○「阪南市海洋教育実践報告会」で舞小学校の取組みを視聴し、フルボ酸を活用した取組みについて学ばせる。</p>

#### 4. 他教科等との関連

○理科「流れる水のはたらき」

侵食・運搬・堆積という流れる水のはたらきで土砂が海に流される中で、山の栄養が含まれていることを理解する。

○理科 「植物の発芽と成長」

植物の成長には「水・日光・空気・肥料・適温」の5つの条件が必要であり、海にいる海藻・海藻も同じであることに気づく。

○社会 「水産業の盛んな地域」

漁獲量や漁の仕方、漁業の問題点について学び、西鳥取の海の状況や漁港の役割、漁師さんの努力や工夫について深く学ぶ。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標 ワカメの色がよくなって、たくさん採れた理由について考え、海の生き物に必要なものについて理解する。

(2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	副読本活用の仕方／副読本活用の留意点
10	○「豊かな森林のある山」の写真と「大雨後のにごった河口」の写真を見せて、感じたことを発表する。		
20	○はんなんのうみP20の子どものセリフを読んで考える。		○プロジェクターでP20だけ映して見せる。
<b>どうしてワカメの色がよくなって、たくさん採れたのかを考えよう</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨が降ってたくさんの山の肥料が海に流れたから。</li> <li>・土が多く流れ込むことで、ワカメにとっての肥料が増えたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○理科の「植物の発芽と成長」の成長の条件について思い出させる。</li> <li>○「にごった川」の中にどのようなものが含まれているかを考えさせる。</li> </ul>	○「はんなんのうみ」P22左上のイラストと、P21の上のイラストを見せる。
10	ワカメの色がよくなった理由を確認する。 ・大雨が降ることで、山の栄養が海にたくさん流れたから。	○ワカメだけでなく、自分たちが育てたアマモの成長についても考えさせる。	○「はんなんのうみ」P21を読む。
5	漁師の「最近の海はきれいすぎて魚が獲れない」というセリフについて考え、次回の学習につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「きれいな海」と「生き物豊かな海」はちがうことに気づかせる。</li> <li>○理科の「災害を防ぐしくみ」で学習したことをふりかえさせる。</li> </ul>	

## 6. 成果と課題

- ・「海がきれいだから魚がたくさん獲れる」という従来の子どもたちのイメージを揺さぶることができた。海の生き物にとって大切なのは、海のきれいさではなく、海の栄養が重要であるということに気づくことができた。
- ・これまで「海の生き物を守ろう」という学習に取り組んだ際、海の環境を守る視点しか持てていなかったが、「海の生き物には山から流れてくる栄養が必要」ということを学び、山・川・海がつながっていることを意識することができた。
- ・ワカメ収穫の前にどれだけ獲れるかを予想した際、「収穫前にたくさん雨が降っていたかどうか」「山の栄養が海に流れていたかどうか」という視点を持って考えることができた。
- ・ワカメの収穫時に、漁師さんから「2週間ほど前に大雪が降ったおかげで、海にたくさんの山の栄養が流れてきて、ワカメの色がとてもよくなった。」という話を聞いたので、山の栄養の効果を実感しながらワカメを収穫することができた。
- ・舞小学校の実践発表を聞くことで、他校とのつながりを持つことができた。今後の5年生の実践につなげていきたい。

# 6年 単元名 わたしたちの海を知ろう

## 阪南市立西鳥取小学校

### 1. 単元の目標

- 地域での漁業について調べ、地域の特色や人々の工夫や努力、悩みをとらえ今後の海との関わりを考えることができる。
- 水産資源や環境を守りながら漁業を進めていることに気づくことができるようにする。

### 2. 単元の評価規準

#### ○知識・技能

普段、食べている魚の生息地や捕り方、どのような人が関わっているのかなど、海に携わる人々の工夫や努力に気づける。

#### ○思考・判断・表現

自然環境を守るための取り組みについて考え、適切に表現できる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

水産業と自然環境とのつながりについて考え、環境を守っていくことの大切さや自分たちにはどのようなことができるのかを考えられる。

### 3. 単元の指導計画(全9時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○大阪の漁獲量が減っている理由について考え、海についての課題を確認する。 ・環境汚染 ・地球温暖化	
2	2 (本時)	○漁師の生活や網漁の種類、養殖の仕方などについて調べ、グループ内で交流する。	○昨年度の漁港見学の際のことを思い出させて話し合わせる。
3	3	○漁師の方にインタビューする内容を考える。 【国語科】 「いちばん大事なものは」	○インタビューで大切なことを確認する。 ・細かく、ていねいに ・大きな声で ・何でも、恥ずかしがらず ・重ねて質問

			○メモの取り方を確認する。 ・大切なこと ・わからないこと ・感動した言葉
4	4	○漁師にインタビューをする。 【国語科】 「聞いて考えを深めよう」 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">はんなんのうみ p52~p55</div>	○事前にグループ内であいさつの担当や質問の順番を決めておく。
5	5 6 7	○調べたことや聞いたことをまとめる。	○これまで学習したことと関連がないか、考えさせてまとめさせる。
6	8 9	○3学期、たてわり班に分かれて発表する活動に向けて、今回学んだことを下級生にどのようにすればわかりやすく伝えることができるか話し合う。	○昨年度の実践報告会発表の動画を見て、発表のイメージを持たせる。

#### 4. 他教科等との関連

○国語「いちばん大事なものは」

互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。

○国語「聞いて考えを深めよう」

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

インターネットや参考図書などをもとに、漁師の生活や、漁の種類、養殖の仕方などさまざまな工夫をしている漁師の仕事について調べることができる。

##### (2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	副読本活用の仕方／副読本活用の留意点
5	○前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	○漁の仕方を例示し、めあてを書く。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;">漁師さんの生活や仕事について調べ、分かったことを話し合おう。</div>			

20	○インターネットや参考図書などをもとにしながら、調べたことを社会科ノートにまとめる。	○調べ方がわからない児童がいた場合、声をかけて調べることができるようにする。	○「はんなんのうみ」P50～55を読んで、昨年度漁港見学した内容をふりかえる。
15	○どんなことを調べたのか共有する。	○友だちがどんなことを調べたのか意識して聞くように確認する。	
5	○(本時の)ふり返りをする。 ○次の時間への見通しをもつ。	○次時に漁師の方にインタビューする内容を考えることを伝える。	

## 6. 成果と課題

- ・3人の漁師から魚をとる方法や仕事の内容、西鳥取の海についての話をくわしく聞くことができた。  
また、話の中で、児童の疑問にその場で答えてくれたので、児童はより深い知識を得られた。
- ・獲れる魚の量や種類が変わってきているということを知り、地球温暖化の影響を身近に感じることができ、地球温暖化を防ぐために、自分たちに何ができるかを考えることができた。
- ・6年生では海洋教育の体験活動が少なく、自分の考えや思いを持つという機会が少なかった。  
以前に取組んだ5年生のワカメの収穫から期間があいてしまうので、何か新たな活動を取り入れるか、聞き書きの時期を1学期にするなど、来年度は計画を見直していきたい。

令和4年度 下荘小学校 海洋教育全体計画

テーマ	アマモから繋がる大阪湾再生
海に親しむ	海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童を育成する。
海を知る	海の自然や資源、海をとりまく社会との深い関わりについて関心をもち、進んで調べようとする児童を育成する。
海を守る	海の環境について調べるときの体験活動などの保全活動など主体的にかかわろうとする児童を育成する。
海を利用する	水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人のつながりについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童を育成する。

テーマ	1 学期					2 学期					3 学期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
海に親しむ	1年		6月28日(火)②③④ 海遊び(里海)	図工「石ころアート」	図画工作コンクール 「海とさかな」応募	生活科「季節による変化 を見よう」 9月13日(火)②③④ 地引網体験・食育(里海)		生活科「秋見つけ」11月1 0日(木)①②(里海公園)					
	2年		6月15日(水)②③④ 海遊び(里海)		図画工作コンクール 「海とさかな」応募	9月12日(月)②③④ 海遊び・石拾い(里海) 9月22日(木)③④かに 見つけ(里海)	図画工作「かに」 かにを触りながら、絵画 を作成	11月17日(木)⑤⑥ 公開授業「石ころアート」					
	3年		5月24日(火)①②③ 下荘漁港見学	6月28日(火)②③④ 生き物探し(里海)	図画工作コンクール 「海とさかな」応募				11月5日(木)③④ チリメンモンスター 岸和田資料館3名		2月13日(月)③④ 海藻おしぼり		
海を知る	4年	社会「ごみのしより」 「水のゆくえ」		6月15日(水) 海藻拾い(里海公園) 河原さん 総合「節水活動」 6月20日(月) 水みらいC見学	総合「節水活動」 社会「津波による災害」	図画工作コンクール 「海とさかな」応募		11月15日(木)⑤⑥ チリメンモンスター 岸和田資料館3名			2月13日(月)③④ 海藻おしぼり 理科「水のすかた」		
	5年	アマモ活動 5月6日(金)④ 岩井さんの話 5月16日(月)⑤⑥ アマモ苗植え(里海)	7月15日(金)、16日 (土) 臨海学校「海辺遊び」 「カヌーいかだ」(青少 年海洋センター)	7月15日(金)、16日 (土) 臨海学校「海辺遊び」 「カヌーいかだ」(青少 年海洋センター)	図画工作コンクール 「海とさかな」応募	社会「水産業」 種子選別9月14日(木) ②③ 9月20日(火)校外学習 「栽培漁業」(水産技術セ ンター)		11月2日(木)③ ベッキーくん出前授業 「海洋ゴミ」 11月11日(金)⑤⑥ 「アマモ苗床づくり」 理科 「流れる水の動き」	12月1日(木)⑤⑥ 「ワカメ苗つけ」 (下荘漁港)		2月3日(金)⑤ 神田先生出前授業 保護者も参加	3月7日(火)⑤⑥ ワカメ収穫(下荘漁 港) 合同実践発表会 オンライン交流	
海を利用する	6年	海岸清掃4月18日 (月)⑤⑥ 理科「環境」 二酸化炭素と環境	海岸清掃5月30日 (月)⑤⑥	国語「環境問題を考えよ う」「森へ」 理科「植物のつくりとは たらき」	図画工作コンクール 「海とさかな」応募	理科「水溶液の性質」 海水はアルカリ性	国語「日本文化を発信 しよう」	11月2日(水)③ ベッキーくん出前授業 「海洋ゴミ」 理科「大地のつくりと変 化」	理科「海洋ゴミ」	社会 「世界の中の日本」 国語「海の命」	2月3日(金)⑤ 神田先生出前授業 保護者も参加		

# 1年 単元名 海のいきものに出会おう

## 阪南市立下荘小学校

### 1. 単元目標

- ・地引網体験を通して、自分たちの町の海岸にはどんな生き物が住んでいるのかを知る。
- ・さまざまな海の生き物に触れることで、命の尊さやその生き物がくらすしていくために環境を守っていくことの大切さを知る。

### 2. 単元の評価規準

#### ○知識・技能

海にはたくさんの生き物が生息していることに気づくとともに、生き物の命はどれも大切であることに気づく。

#### ○思考・判断・表現

生き物の育つ場所や特性について興味・関心をもって働きかけるとともに、生き物への接し方について考えたり工夫したり振り返ったりし、それを素直に表現している。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

生き物に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命のあるものとして、大切にしようとしている。

### 3. 単元の指導計画(全21時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1～3	○生き物に会いにいこう ・これまでの生き物との出会いの経験を話す。 ・海の生き物について、興味・関心のあることを調べる。 ・生き物に会いに行く。	○家で飼っている生き物だけでなく、自然の中でみつけた生き物についても触れさせる。  ○海はどんな自然なのか、イメージをもたせる。
	4・5	○生き物と触れ合おう ・校区の里海公園へ行き、干潟に現れる生き物に触れ、観察をする。	○安全に気をつけて、活動できるようにする。
	6～8	○見つけたことをしようかいしよう ・見つけたことや感じたことを、はっけんカードにまとめる。 ・学級で発表会をして、交流する。	○感想だけを書くのではなく、形・色・動きなど、細かな観点で書くようにする。

2	9~12	<p>○石ころアートをたのしもう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里海公園で、石ころアートに適した石を拾う。</li> <li>・石の形から想像を膨らませて、アートにしたい絵柄を決める。</li> <li>・カラーペンで着色し、作品を作る。</li> <li>・できた作品を学級で交流する。</li> <li>・作品を写真に撮り、学級で「海辺の生き物」を表す合同作品を作成する。</li> </ul>	<p>○石の形を生かして、様々なイメージを膨らませるようにする。</p> <p>○紙とは質感が違うので、着色の際は留意することを伝える。</p> <p>○海の生き物を想像しながら描き、楽しく作成する。</p>
3	13~17	<p>○海のこともっと知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海中にはどんな生き物が暮らしているのか、知っていることを話し合う。</li> <li>・里海公園で、地元の漁師の方と地引網体験を行う。</li> <li>・海中から引き上げられた生き物に実際に触れ、詳しく観察する。</li> </ul>	<p>○自分たちの生活は、身近な海やそれにかかわる人々の働きとかかわっていることに気づかせる。</p> <p>○目で見るだけでなく、実際に触れさせる。</p>
	18~21	<p>○海ではっけんしたことをしょうかいしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地引網体験で出会った生き物について、はっけんカードにまとめる。</li> <li>・学級で発表会をして、交流する。</li> <li>・海の活動全体の振り返りをする。</li> </ul>	<p>○感想だけを書くのではなく、形・色・動き、触った感触、におい、など、細かな観点で書くようにする。</p>

#### 4. 他教科等との関連

国語：「大きくなった」

生活：「生きもの だいすき」

道徳：「いのち・しぜん・うつくしいもの」

図画工作：「みて、さわって、かんじて」

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

身近な自然である海から拾った石を使い、その形や特性を生かしながら、楽しんで作品作りを行う。

##### (2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	<p>○本時のめあてを確認する。</p> <p>石ころのかたちをよく見て、すてきなアートをつくろう。</p>	<p>○何に見えるか、どんな形に似ているかいろいろな角度から見ることを伝える。</p>

30	○カラーペンを使って、石に絵や模様を書く。	○紙よりもインクの乾く速度が遅いので、しっかりと乾かすようにする。
10	○グループで見せ合って、作品の良さを交流する。	○形のおもしろさを生かしているか、色の工夫を感じられるか、よいところ見つけのポイントを伝える。

## 6. 成果と課題

### 【成果】

小学校入学より初めての校外学習であったため、子どもたちは海の自然に高い興味・関心をもって活動に取り組むことができた。また、普段、写真や動画でしか見る機会のない自然の生き物を実際に手に取って触れ、観察できたことは、何よりも貴重な経験になったように思う。また、指先ほどの小さな生き物でも、命があり、動き泳ぐ様子を実際に見ることで、命の大切さ、尊さにも気づくことができていた児童の様子もたくさん見られた。

### 【課題】

低学年として、初めての海洋学習で、たくさんの生き物にふれ、自然についての理解を深めるに留まったが、次学年以降は、その自然を守る環境保全や環境美化の視点から授業を組み、よりその姿勢を育てていく必要があると考える。



## 2年 単元名 しぜんからの おくりもので

### 阪南市立下荘小学校

#### 1. 単元目標

- ・さまざまな海の自然や生き物に関する作品作りを行うことで、自分のたちの町の自然のすばらしさや大切さを知り、また、その自然を守っていくことの大切さを知る。
- ・自然の材料、生き物と触れ合いながら、形や色・自分にはどのように見えたかを創造的に考え、発想を膨らませながら作品作りを楽しむ。

#### 2. 単元の評価規準

##### ○知識・技能

自然の生き物や材料に触れ、その特徴や形をじっくりと観察することを通して、自然の豊かさや面白さに気付いている。

##### ○思考・判断・表現

自然の生き物や材料の形や色、触った感じなどをもとに造形的な活動を思いつき、どのように活動するかを考えている。

##### ○主体的に学習に取り組む態度

自然の生き物や材料の形や色に関心を持ち、思いついた活動に楽しく取り組もうとしている。

#### 3. 単元の指導計画(全12時間)

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	1	○自然や生き物に会いにいこう ・これまでの生き物との出会いの経験を話す。	○前学年や1学期の自然海岸での活動を写真や動画を使って振り返られるようにする。
	2	○自然や生き物と触れ合おう ・校区の里海公園へ行き、干潟に現れる生き物に触れ、観察をする。 ・石ころアートに用いる石を探し、持ち帰る。	○安全に気をつけて、活動できるようにする。 ○カニの体の様子を詳しく観察できるように、1匹だけ持ち帰る。
2	6~ 10	○生き物を描こう ・持ち帰ったカニをよく観察し、鉛筆描きで体を描く練習をする。 ・クレパスを用いて、カニの体を画用紙に大きく描く。 ・大きなカニと遊ぶ自分を想像し、カニのそばに描く。	○甲羅の模様や足の関節の様子など、細かなところまで観察することを伝える。 ○単色でなく、様々な色を用いて描くようにする。
3	11 ~ 12	○石ころアートをたのしもう ・石の形から想像を膨らませて、アートにしたい絵柄を決める。 ・カラーペンで着色し、作品を作る。 ・できた作品を学級で交流する。	○石の形からイメージを膨らませやすくするよう、タブレットで撮影した写真に下書きを描けるようにする。 ○紙とは質感が違うので、着色の際は留意することを伝える。

#### 4. 他教科等との関連

国語:「かんざつ名人になろう」

生活:「みんな生きている」

図画工作:「みて、さわって、かんじて」

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

身近な自然である海から拾った石を使い、その形や特性を生かしながら、楽しんで作品作りを行う。

##### (2) 本時の指導計画

時間	学習活動	指導上の留意点	副読本の活用の仕方／副読本の活用の留意点
5	○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">石ころのかたちをよく見て、すてきなアートをつくろう。</div> ○副読本「はんなんのうみ」を読み、今までの海洋学習の活動を振り返る。	○タブレットに残してあるいろんな角度から見てイメージしたものの写真を振り返るようにする。	○事前に他学年から副読本を借りてきて1人1冊配布する。
25	○副読本10ページを読み、活動の見通しを持つ。 ○カラーペンを使って、石に絵や模様を書く。	○紙よりもインクの乾く速度が遅いので、しっかりと乾かすようにする。	○副読本の写真のように、石の形からイメージを持たせる。
10	○学級で石ころアートを見せ合って、作品の良さを交流する。	○形のおもしろさを生かしているか、色の工夫を感じられるか、よいところ見つけのポイントを伝える。	
5	○学習の振り返りをする。	○今年度訪れた際の自然海岸の様子を踏まえて、学習の内容を振り返られるようにする。	

#### 6. 成果と課題

##### 【成果】

本学年の児童は、石ころアートや生き物観察を前年度も行っている。しかし、今回は図工という教科を通して系統立てて行うことで、より様々な自然の持つ魅力やおもしろさに気づくことができた。

また、実際に自分で素早く逃げるカニを捕まえ、じっくり1時間かけて観察させたことにより、カニや石ころを見る観点や角度も1年生の頃よりも深まりを感じた。図鑑やタブレットで調べて分かったことを書き移すだけの模造紙づくりではなく、生きた教材を扱ったので、生き物新聞に深まりがあった。海洋教育に取り組むことにより、一人ひとりの感性を最大限に発揮させ、素晴らしい個性を出すことができた。

学習の振り返りの中にも、お互いの作品を見合うことにより、新たな気づきや個性と出会うことができた。アートとして楽しんだ感想以外に、命の大切さやその命が暮らしていくための環境の大切さに気付くことができていく意見がたくさん見られた。

### 【児童感想より】

- ・1年生のときは、カニをつかまえられなかったけど、今年は、自分でつかまえることができて、すごくうれしかったです。
- ・画用紙はみ出すくらいに大きなカニの絵がかけて、うれしかったです。
- ・みんながうカニの絵になっていたからびっくりしました。
- ・また、みんなで海に行つて、生き物観察をしたいです。
- ・台風の次の日に行ったから、海岸のところにみどり色のかいそうがたくさんあってびっくりした。
- ・カニをいっぱいさわつて、楽しかったです。
- ・いきものしんぶんをみんなで作つて、よかったです。また、作りたいです。

### 【課題】

生き物をテーマにアートを楽しむことで、今回命や環境の大切さまで気づきを広げることができたので、その命や環境保全のために『小さなゴミ拾い』などの時間を短時間でも設け、活動の中に盛り込むことができれば、より深い学びになるのではと考える。



# 3年 単元名 つながろう!つなげよう!私たちと里海

## 阪南市立下荘小学校

### 1. 単元目標

校区にある里海での体験活動や大阪湾に住む生物についての学習を通して、海への親しみや愛着を持つとともに、自然を大切に、環境を守っていくことの大切さを知り、自分たちにできることを実践する気持ちを育む。

### 2. 単元の評価規準

#### ○知識・技能

海洋生物や海藻などの性質・育ち方について海の世界と結びつけながら調べることでその関係性を理解することができる。

#### ○思考・判断・表現

里海での生き物探しや海藻おしば作りなどの体験的活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

身近な海を取り巻く環境等について知り、里海に愛着を持ち自然を大切にすることができる。

### 3. 単元の指導計画(全13時間)

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	1,2	○里海で生き物を見つけよう。 ・大阪湾の自然海岸について話を聞く。 ・それぞれ自由に生き物を探し、見つけた生き物を観察する。 ・自分の気に入った形の石を探し、石ころアートに使う石を持ち帰る。	○大阪湾や校区の自然海岸について知り、特色のある校区に興味を持たせる。 ○生き物と触れ合うことで生物の多様性に気づかせ、地域の里海に愛着を持たせる。 ○安全に留意しながら活動できるように事前指導を十分に行う。
	3 ～ 5	○見つけた石で石ころアートを作ろう。 ・石の形を写し、いろいろなものに見立てて下書きを考える。 ・石に着色したり、物の形に見立てたりして作品を作る。 ・作品鑑賞会を行い、自分の作品を紹介し、友だちの作品のよいところなどについて交流する。	○石の形や色に興味を持ち、物の形に見立てられるようにする。 ○鑑賞会では色や形を生かしたデザインのよさや工夫を共有できるようにする。
	6 ～ 8	○地域にある漁港を見学しよう。 ・『はんなんのうみ』を読んで、下荘漁港について学習する。	○校外学習を行う際の注意点を事前に指導する。 ○漁港の様子だけでなく、漁港周辺の地域の特徴にも気づくようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁師さんへの質問したいことを考える。</li> <li>・校区探検として下荘漁港を見学し、漁師さんの話を聞く。</li> <li>・疑問に思ったことを、漁師さんに質問する。</li> </ul>	
2	9, 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チリメンモンスターを見つけよう。</li> <li>・チリメンモンスターについて知る。</li> <li>・カタクチワシとそれ以外のものを探し、同じ種類ごとにまとめていく。</li> <li>・見つけたチリモンについて調べる。</li> <li>・自分が見つけたチリモンで標本カードを作る。</li> <li>・チリモンの育つ環境や種類について、ゲストティーチャーから話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地元の海やそこで行われている漁業に関心を持ち取り組めるよう、写真やパネルなどを使って紹介する。</li> <li>○外部講師の方から話を聞きながら、見つけたチリモンの名前を、標本一覧や顕微鏡を使いながら調べる。</li> </ul>
3	11 ～ 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海藻おしばを作ろう</li> <li>・ゲストティーチャーから海藻の育つ環境や種類について聞く。</li> <li>・海藻を選び、色や形の組み合わせを考えながら作品を作る。</li> <li>・出来上がった作品の鑑賞会を行い、自分の作品を紹介し友達の作品のよいところなどについて交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見本を見せながら自由に自分が表現したいものをつくるように助言する。</li> <li>○作品を押す際に、重なったりしていないか確認する。</li> <li>○鑑賞会では色や形を生かしたデザインのよさや工夫を共有できるようにする。</li> </ul>

#### 4. 他教科等との関連

- 国語「これが私のお気に入り」
- 社会「私たちの住んでいる市のようす」
- 理科「生き物を探そう」
- 道徳「ふるさといいところさがし」
- 図工「集めて、ならべてマイコレクション」

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

ちりめんモンスターを観察し、海の生き物について知る。

##### (2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	1. 大阪湾について知る。	・身近な大阪湾について興味を持てるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪湾の広さや深さ、どのような魚が住んでいるか知る。</li> <li>・今と昔の大阪湾の写真を見比べ、今の大阪湾の現状を知る。</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. ちりめんモンスターについて知る。</li> <li>・ちりめんモンスターの採集方法を知る。</li> <li>・ちりめんモンスターは、ちりめんじゃこの製造過程で不純物として取り除かれたものであることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちりめんモンスターが、本当に海で生きていたことを印象付ける。</li> </ul>
25	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 各自、ちりめんモンスターを調べ、どのような生物がいるか探す。</li> <li>・「チリメンモンスター図鑑」を見て、分類をしながら観察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察中は、児童の感動に共感し、発言を受け止める。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. チリメンモンスターには、どのような生物がいるか説明を聞く。</li> <li>・疑問に思ったことを質問する。</li> <li>・「メガロパ」について知る。</li> <li>・いかとたこの見分け方について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の気づきから広げ、解説をしていく。</li> <li>・双眼実体顕微鏡の使い方を補助する。</li> </ul>
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>5. ミニ標本カードを作成する</li> <li>・見つけたちりめんモンスターの中から、いくつかをカードに張り付け、標本カードを製作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の生き物の多様性に気づかせる。</li> </ul>
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>6. 本時の学習内容について振り返る</li> <li>・ワークシートに感想をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の環境を守るためにできることを考えさせる。</li> </ul>

## 6. 成果と課題

### 【成果】

- ・海にはたくさんの生き物がいることを知り、校区にある里海を大切にしようという思いをもつことができた。
- ・海洋生物について調べる活動を通して、いただいている命を無駄にしないように考える児童が増えた。給食では、出てきた魚を残さず食べようとする姿勢が見られた。
- ・今年度、「チリメンモンスターカード」や「大阪湾かるた」を各クラスに購入し、普段から、遊ぶことができるようになり、魚の名前を覚えたり海の生き物の生態を知ったりすることができ、親しめるようになった。

【課題】

- ・「海をきれいにしたい」「海の生き物を大切にしたい」という思いをもつことはできが、具体的に何をすればいいのか、自分の生活を見返して考えられる児童は少ない。普段の生活から意識できるよう、他の教科との関連の中で、教師が意識的に指導していく必要がある。



# 4年 単元名 里海の秘密を探そう!!

## 阪南市立下荘小学校

### 1. 単元目標

校区の里海で、海遊びを楽しんだり、色々な海藻や生き物に触れたりすることを通し、里海の秘密や魅力を探る。

### 2. 単元の評価規準

#### ○知識・技能

海へ入り、ゲストティーチャーの講話などから、里海の手藻や生き物について理解することができる。

#### ○思考・判断・表現

チリメンモンスターや海藻おしばづくりなどの活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

自分たちの生活が環境に与える影響を意識して、環境を守るために自分たちにできることを考えたり、生活の仕方を見直したりすることができる。

### 3. 単元の指導計画(全6時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1,2	○校区の里海で、校外学習をする。 ・海の生き物に触れる。 ・海藻を集める。 ・海遊びを楽しむ。 ・振り返り(新たに分かったこと、不思議だと思ったこと、調べてみたいと思ったことなど)	○地域の海に慣れ親しみ、海の生き物や海藻に触れ、様々な気づきや発見を楽しませる。 ○海藻を集め、名前を知る。(アナアオサ、ツノマタ、カバノリ、マクサ、オゴノリなど)
3	3,4	○チリメンモンスター探し ・ゲストティーチャーの講話 ・チリメンモンスター探し	○大阪湾にはどんな魚が生息しているかを知り、海に興味を持たせる。
4	5,6 本時	○海藻おしばづくり ・海藻おしばに使う海藻を選ぶ ・海藻をはがきにはりつけ、海藻おしばをつくる。	○海藻の色や形などを吟味し、自分の思いをおしばづくりで表現できるようにする。

### 4. 他教科等との関連

○国語「聞き取りメモのくふう(話し方や聞き方から伝わること)」「アップとルーズで伝える」

○社会「下水のゆくえ」「浄水場のしくみ」

○理科「季節と生き物」「水のゆくえ」

## 5. 本時の展開

(1) 本時の目標 色々な魚のチリメンモンスターを見つけ出し、大阪湾に生息している魚のことを知る。

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
20	1. 大阪湾について知る。 ○大阪湾の広さや深さ、どんな魚が住んでいるか知る。 2. チリめんモンスターについて知る。 ○チリメンジャコ、チリメンモンスター図鑑で色々な生物を見る。 ○ちりめんモンスターの採集方法を知る。 ○ちりめんモンスターは、ちりめんじゃこの製造過程で不純物として取り除かれたものであることを知る。	○図鑑等で大阪湾の生き物を調べ、大阪湾の生態系の豊かさに気付けるようにする。 ○ちりめんモンスターが、本当に海で生きていたことを印象付ける。
50	3. チリメンモンスター探し ○虫眼鏡、ピンセットなどを使って、チリメンモンスターを探す。 ○図鑑を使い、どのような生物が含まれていたかを調べる、仲間分けをする。 4. チリメンモンスターには、どのような生物がいるか説明を聞く。 ○疑問に思ったことを質問する。	○仲間分けするとき、大まかな種類で分けるのではなく、図鑑を見ながら詳しい分類で分けるようにする。 ○児童の気づきから広げ、解説をしていく。
20	5. ミニ標本カードを作成する。 ○見つけたちりめんモンスターの中から、いくつかをカードに張り付け、標本カードを製作する。 6. 本時の学習内容について振り返る ○ワークシートに感想をまとめる。	○同じ種類で標本をつくるのではなく、違う種類でつくるように声掛けをする。 ○海の環境を守るためにできることを考えさせる。

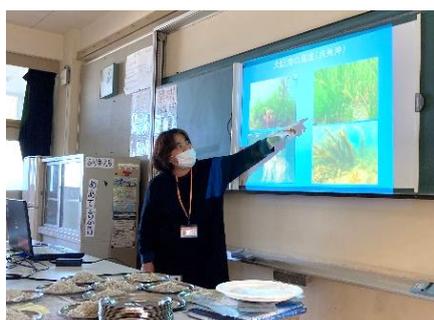
## 6. 成果と課題

### 【成果】

- ・チリメンモンスター探しの活動を通して、大阪湾の生態系の豊かさなどを理解することができていた。
- ・校区にある里海に生きる小さな生き物たちのためにきれいにしようという思いをもつことができた。
- ・活動を通して、里海の生き物や環境を大切にしようという思いが芽生えた。

### 【児童感想より】

- ・私たちの住んでいる地域の海に、こんなにたくさんの魚がいると知れてよかった。
- ・チリモンは色々な魚の子どもだけれど、親の魚と全然違う形をしているのもあることが分かった。
- ・ピンセットで何とかつかめるほど小さな魚たちが、広い大阪湾に生きていることを知った。
- ・これから給食のとき、ちりめんじゃこが出てきたら、しっかり残さず食べようと思った。



# 5年 単元名 わたしたちの里海を守ろう

## 阪南市立下荘小学校

### 1. 単元目標

校区の里海や大阪湾について調べたり、様々な体験活動を行ったりして、海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかわりがあることを理解し、環境問題を自分事として捉えて課題解決に取り組むとともに、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかわりがあることや、環境保全のために活動したり努力したりしている人々がいることを理解している。

#### ○思考・判断・表現

身近な環境問題や環境保全活動に関心をもち、環境問題を自分の問題として捉え、必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

友だちと協力して課題解決や実践に取り組むとともに、環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な里海とのかかわりを見直そうとしている。

### 3. 単元の指導計画(全 25時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1, 2	○外部講師の方から、海に関する話を聞く。 ・大阪湾について ・アマモについて ・校区の里海にいる生き物について ・アマモの苗植え	○大阪湾や校区の里海について知り、特色ある校区に興味を持たせる。 ○これからの学習についての見通しを持たせる。
2	3, 4	○校区の里海で、校外学習をする。 ・見つけた生き物について知る。 ・地引網体験	○生き物と触れ合うことで、生物の多様性に気づかせ、地域の里海に愛着を持たせる。
3	5~8	○アマモを育てる。 ・種を選別する。 ・里海に種をまく。 ・苗床づくり、学校で育てて観察する。	○これから育てていくことを伝え、丁寧に作業に取り組ませる。

4	9～ 11	<p>○校外学習で「水産技術センター」に行き、大阪湾に生息する生き物について知る。</p> <p>・水産技術センターの役割についてビデオを視聴する。</p> <p>・大阪湾に生息する生き物を見たり、触ったりする。</p>	<p>○海を守るための活動をしていることに気づかせる。</p> <p>○実際に生き物と触れ合い、生物に愛着をもたせる。</p>
5	13	<p>○ペッパーくんの出前授業(海のゴミ問題)</p> <p>○黒潮実験センター神田先生の講演(里・海・川のつながり)</p>	<p>○海に捨てられたゴミはどのような影響を及ぼすのかを知る。</p> <p>○海は、川・里・山とつながっており、すべての環境をよりよくしていこうと</p>
6	14～ 17	<p>○ワカメの種付け、ワカメの収穫を行い、地元の海で立派なワカメが育てられることを知る。</p> <p>・ワカメは、海中の窒素やリン、二酸化炭素を吸収し、ブルーカーボンに役立っていることを知る。</p>	<p>○数センチメートルのワカメの種付けを行うことで、ワカメの成長の早さに気づかせる。</p> <p>○地元の海の資源に気づき、愛着をもたせる。</p>
7	18 (本時) ～ 23	<p>○学習したことを各テーマでスライドにまとめる。</p> <p>・伝えたいテーマを決める</p> <p>・役割を分担し、班で協力しながら行う。</p> <p>・できたスライドを学級で見合い、改善する。</p>	<p>○「学習したことを他校の児童に伝えるための新聞」という目的を意識させる。</p> <p>○学校の代表として書くことを伝え、丁寧に作業に取り組ませる。</p>
8	24～ 25	<p>○他校のポスターを見て、感想を書く。</p> <p>・初めて知ったこと</p> <p>・もっと詳しく知りたいと思ったこと</p> <p>・良いなと思ったこと</p> <p>○これから自分たちにできることについて考える。</p>	<p>○自分たちが学習したことと関連させて感想を書かせる。</p> <p>○「わたしたちの里海」を守るために自分ができることを具体的に考えさせる。</p>

#### 4. 他教科等との関連

- 国語科「調べたことを正確に報告しよう」「グラフや表を用いて書こう」「新聞を読もう」
- 社会科「水産業」
- 理科「流れる水の働き」
- 家庭科「食べて元気!ご飯とみそ汁」

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

今まで学習したことや調べたことを振り返り、相手意識を持って、工夫して紙面にまとめることができる。

### 【知識・技能】

校区にある里海でのフィールドワークやアマモを育てる活動などを通して、アマモの役割や環境に役立つことなどを理解し、その探究の技能を身につける。

### 【思考・判断・表現】

里海にアマモを増やす活動や里海の良さを発信するために、写真や図や表などを用いてまとめ、自分なりに考えたことや分かった表現し、紙面に表すことができる。

### 【主体的に学習に取り組む態度】

里海を守るために、自分たちにできることから行動し、広めようとする。

## (2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○めあてを確認する。 「アマモを育てる活動を通し、海について学習したことを他校の人に伝えよう。」	○海洋学習を行っている3校とポスターを交流することを伝え、活動の見通しをもたせる。
10	○今年度、海洋学習に取り組んだ活動内容を振り返る。 ・外部講師の話(里海・大阪湾について) ・里海での生き物探し ・アマモについて ・水産技術センターの見学 ・ワカメについて	○今までの活動写真を提示し、振り返らせる。 ○今まで活動した中で、印象深かった出来事に注目させる。
25	○スライドのテーマ・書く内容・分担について話し合う。 ・スライドに書くことは、短くまとめる。 ・写真や図を使う。	○伝える相手を意識させて、書く内容を考えさせる。 ○次時の活動がスムーズにいくよう役割分担をさせておく。
5	○次時の活動について確認する。	○今までの学習ノートや参考になる本、カラーペンなど、使うものは自分たちで用意しておくように声かけをする。

## 6. 成果と課題

### 【成果】

- ・実際に海に行ったり、アマモやワカメの栽培に参加したりして、地元の海には水産資源が豊富にあることを知ることができた。
- ・アマモ・ワカメ活動や栽培漁業センターへの遠足などを通して、身近な海(大阪湾)にある問題点を知ることができた。

- ・環境問題について考えることで「ごみ拾いをして海をきれいにする。」「マイクロプラスチックを出さないよう、自然分解できる素材のものを使う。」など、自分にできることを実践していきたいという思いをもち、地元の海を守ろうと考えることができた。
- ・タブレットで撮った写真や動画を入れたスライドを作り、海洋教育実施校と活動報告をすることができた。
- ・教室前にアマモの水槽を置いたことにより、毎日、タブレットで成長観察することがより簡単になった。
- ・2月に海洋教育実践校の合同発表会に向けて、今までの活動をまとめる際、副読本を何度も読み直し、まとめることができ、副読本を作成したことは大変有効である。本校は、4～6年のみ1人1冊あるが、もっと冊数が増えるとさらにうれしい。

### 【課題】

- ・たくさん体験したにもかかわらず、どれだけアマモが海の環境を良くしたのか、児童自身があまり実感としてわいていないように見えた。例えば、自分たちが植えたアマモが海の中でどんな風に育ったか。アマモを増やすことにより、どれくらい海がきれいになったかなど、児童自身が課題意識を持ちながら、貢献できていることを意識させながらさせたい。
- ・外部講師の方の協力のもと、アマモ活動を行ったが、次年度からは、自分たちで計画を立て、里海のアマモ実態調査をしに行きたい。



# 6年 単元名 海洋ごみをゼロにしよう

## 阪南市立下荘小学校

### 1. 単元目標

校区の里海や大阪湾について調べたり、様々な体験活動を行ったりして、海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかかわりがあることを理解し、現在地球上で起きている環境問題を自分事としてとらえて課題解決に取り組むとともに、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかかわりがあることや、環境保全のために活動したり努力したりしている人々がいることを理解している。

#### ○思考、判断、表現

身近な環境問題や環境保全活動に関心をもち、環境問題を自分の問題としてとらえ、必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

友だちと協力して課題解決や実践に取り組むとともに、環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な里海とのかかわりを見直そうとしている。

### 3. 単元の指導計画(全10時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1	○海洋ごみの事実を知る。 ・私たちが暮らす街で発生したごみが、海洋ごみが8割を占めていることを知る。 ・街と海が繋がっていることを再認識する。	・新聞記事をもとに、現在、世界的に問題になっている海洋ごみについて知る。 ・これからの学習についての見通しを持たせる。
	2	○海洋ごみの種類を知る。 ・プラスチックが多いこと ・マイクロプラスチック ・世界的にプラスチックごみ排出量が多い国	・教室にあるプラスチックを探すことで私たちの身の回りにはあふれていることを再認識させる。
	3、4	○里海の自然海岸にごみ拾いに行く。 ・拾ってきたごみを分別する ・写真を撮って、記録しておく。	・実際にごみ拾いをさせ、生き物が共存していることを知り、海をきれいに保ちたいという気持ちを育てる。

	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マイクロプラスチックを減らす取り組み</li> <li>・マイクロプラスチックが与える悪影響</li> <li>・被害を受けている動物の実態の紹介</li> <li>・日本や海外における取り組みの紹介と効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロプラスチックの特徴と動物たちへの悪影響を知らせ、考えさせる。</li> <li>・ワカメなどの海草が効果的であることを知らせ、活動の意義を確認させる。</li> </ul>
	6、7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ベッパーくんの出前授業(海のゴミ問題)</li> <li>○黒潮実験センター神田先生の講演(里・海・川のつながり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海に捨てられたゴミはどのような影響を及ぼすのかを知る。</li> <li>○海は、川・里・山とつながっており、すべての環境をよりよくしていこうと</li> </ul>
2	8 ( 本時), 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海洋ごみなどの環境問題について知り、もっと調べたいことや他の学年に知らせたいことなどを、本やインターネットで調べる。</li> <li>・海藻カーテンの取り組みの紹介</li> <li>・里海を守っていく方法を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に感じた課題をさらに詳しくタブレットで調べさせる。</li> </ul>
3	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リサイクルされているプラスチックごみについて調べ、紙面にまとめる。</li> <li>・日本において、リサイクルされているものや方法</li> <li>・リサイクルされてできる製品</li> <li>・身の回りのリサイクル製品調べ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本におけるリサイクル率やリサイクルするメリットから、身の回りでリサイクルされているものについて考えさせる。</li> <li>・個々に感じた課題をさらに詳しくタブレットで調べさせ、紙面にまとめさせる。</li> </ul>

#### 4. 他教科等との関連

○国語「わたしたちにできること」「みんなで楽しくすごすために」「海の命」

○理科「生物どうしのつながり」「自然とともに生きる」

○道徳「白神山地」「地球を救う」「奉仕する心」

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

海藻が海中で光合成を行うことにより、二酸化炭素を吸収し酸素を出す仕組みを知り、環境問題に関心を持ち、里海を守ろうとする。

##### 【知識・技能】

本校で育てているアマモやワカメの生態が環境に役立つことを理解し、その探究の技能を身につける。

##### 【思考・判断・表現】

世界で起きている海洋ゴミ問題を理解し、図や表などを用いてまとめ自分なりに考えたことや分かった表現し、紙面に表すことができる。

##### 【主体的に学習に取り組む態度】

里海を守るために、自分たちにできることから行動し、広めようとする。

## (2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○めあての確認 「マイクロプラスチックを減らす取り組み」 について考える。	・マイクロプラスチックについて興味を持たせる。
20	○マイクロプラスチックを減らす取り組み 「海藻カーテン」の取り組みを紹介する。 ・光合成の仕組み ・海中の二酸化炭素の吸収 ○キーワードをおさえさせる。 ・光合成、酸素、二酸化炭素 ・私たちの生活から出る二酸化炭素 ・地球温暖化 ○感想を書く。	・本校で育てているアマモやワカメが海中で光合成をして二酸化炭素を吸収していることを知らせる。 ・1学期に学習した「光合成」の仕組みを思い出させる。
20	○グループで感想の交流 ・グループノートや黒板の活用	

## 6. 成果と課題

### 【成果】

- ・児童たちは、テレビや新聞などの情報から、海洋ゴミについての知識はある程度知っていたが、授業においていねいに解説し、考える時間を設けたことは大変有効であった。
- ・自分たちが毎日見ている里海にも、プラスチックごみが浮遊し、マイクロプラスチックごみになっていると気づき、陸と川・海がつながっていることを再認識することができた。
- ・学校生活において、里海の海岸の様子を気にする発言があり、自分たちがきれいにした状態が維持できているのかまた清掃に行きたいよねと、気にしている様子が見られる。

### 【児童感想】

- ・森・川・海がつながっていることを学ぶことができた。これからも、自然や環境を守るために自ら行動を起こしていけたらいいなと思います。
- ・「海を守ることは、魚や海藻の命を守るとともに、川や森を守ることにもなるということ」を学びました。大阪湾の海を守るためにできることを考え、進んで行動したいと思いました。
- ・海岸のごみ拾いをしたとき、釣り具のようなものやペットボトルがたくさん落ちてあって、どうして捨てる人がいるのかなと思いました。やめてほしいです。
- ・マイクロプラスチックや人工海岸が多くなっていて、海の環境が壊れていっている現状を知れたので、この自然海岸がある阪南市でごみ拾いなど、自分ができるところを頑張っていこうと思いました。

### 【課題】

- ・今まで海洋教育で学んだことを総括し、他学年に発信し啓発活動を適宜取り入れることができなかった。総まとめとして、そのような活動を取り入れることで、理解をより深めることができたと思う。



令和4年度 海洋教育年間指導計画		阪南市立舞小学校											
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生								ちりめん モンスター					
	関連教科・学習等							図工「うみのほのほし ぞないきもの」 理科「うみのかくれん ぽ」 運動「ハラスター」の赤 なまゆ					
2年生				ビーチ コミング						海藻おしぼ	カキ割り体験		
	関連教科・学習等			図工「らしきなまこ」 理科「スイミー」 運動「なんじょうび」 生活「みんな生きてい る」 音楽「あかりくしら」						生活「大まぐそでてわた しのおさかい」 運動「うのかまにそでたて、 ミニトマト」	理科「かんさつめいじん になろう」 生活「大まぐそでてわた しのおさかい」		
3年生					肥料づくり							海苔漉き体 験	
	関連教科・学習等				社会「阪南市のつづりか わり」 理科「植物の一生」								社会「わたしたちの市の 様子」 「わたしたちのく らしとはたらくら々々」
4年生				海の生き物観察	フルボ酸づくり				山・川・海の循環学習				
	関連教科・学習等			社会「大阪前の土地のよ うすと人々のくらし」 「市内の特色ある地域」 理科「水のゆくえ」「夏 の生き物」	社会「くらしと水」 理科「くらしと水」 理科「水のすがた」「水 のゆくえ」								
5年生					フルボ酸づくり				里山管理	ワカメ種つけ体験		ワカメ収穫体 験	
	関連教科・学習等				社会「水運業の盛んな地 域」 理科「植物の生育と成 長」				社会「水運業の盛んな地 域」 理科「森林とわたしたち のくらし」 理科「森林とわたしたち のくらし」 理科「森林とわたした ちのくらし」 理科「水運業の盛んな 地域」 理科「森林とわたした ちのくらし」			家庭科「おいしい楽しい 調理の力」 「食べて元 氣！こねとみそ汁」 社会科「水運業の盛んな 地域」	
6年生							フルボ酸の活用				取の組みの発信		植樹活動
	関連教科・学習等						図工「わたしたちにてき ること」 理科「肥料の調べ方」 理科「自然とともに生き る」				図工「わたしたちにてき ること」 理科「肥料の調べ方」 理科「自然とともに生き る」		図工「わたしたちにてき ること」 理科「肥料の調べ方」 理科「自然とともに生き る」

# 1年 「海の生きものとなかよし」

## 阪南市立舞小学校

### 1. 単元目標

○生きものとふれ合う活動を通して、生きものへの関心と愛着を深め、それらの成長や命の尊さに気付くとともに、生きものを大切にすることができる。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

海の生き物を発見する活動を通して、生き物の多様性に気づくことができる。

#### ○思考・判断・表現

海の生き物を観察して気づいたことを表現し、他の人に伝えることができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

海の生き物に関心をもち、調べようとするすることができる。

### 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p><b>海であそぼう</b></p> <p>1. 砂をほったり、つんだり、形作ったりして、砂のさわり心地を味わう。</p> <p>○もってきたカップや、海の水を使って、形作っていく。</p> <p>○砂の中に、小さな貝殻など混ざっていることに気づかせる。</p> <p>○砂浜には、流されてきたいろいろなものがあることを知る。</p> <p><b>海の生き物とふれあおう</b></p> <p>1. 海にはたくさんの生き物がいることを知る。</p> <p>○岩場にかくれているカニはヤドカリを見つけたり、つかまえて観察したりする。</p> <p>○いろいろな色や形のちがう生き物がいることに気づかせる。</p>	<p>☆里海公園：河原美也子さんと 事前打ち合わせ</p> <p>○図工科「さらさらどろどろ いいきもち」とのつながり をもたせる。</p> <p>里海公園にて引き潮の時間に行く。</p> <p>○国語科「うみのかくれん ぼ」の学習を想起させ、つ ながりをもたせる。</p>

		<p>海の生きものに関心を持とう（学びに向かう力）</p> <p>1. 海で生活している魚について話し合う。 ○知っている魚の名前、食べたことのある魚について友だちと話しあう。 ○給食や家で食べているちりめんじゃこについて話し合う。</p> <p>2. ちりめんじゃこに小さな生きものが交ざっていることを知る。</p>	<p>○図書の時間を利用し、図鑑などにもふれさせる。</p>
2	2  3 (本時)	<p>チリメンモンスターをさがそう（知識・技能）</p> <p>1. チリメンモンスターを探すことのねらいを知る。</p> <p>2. いろいろな小さな生きものに親しむ。 ○ちりめんじゃこに交ざっているイカやタコなどの小さな生きものを探すことで海の環境に興味を持つ。</p>	<p>☆講師：TEAM GASA の前田ゆきみさん</p>
3	4  5	<p>チリメンモンスターの観察カードを書こう（思考力、判断力、表現力）</p> <p>1. チリメンモンスター探しの活動を通して気づいたことを観察カードに書く。</p> <p>2. 観察カードを交換し、自分の気づきを交流する。</p>	<p>○色や形などのちがいに着目して書くように声をかける。</p>

#### 4. 他教科等との関連

○国語科「うみのかくれんぼ」

- ・海の写真を見て、海へ行った経験や遊んだ経験について話し合う。
- ・海の生き物について知る。

○図工科「さらさらどろどろいいきもち」

- ・砂を掘ったり、積んだり、形作ったりして、砂の触り心地を味わう。

○道徳科「ハムスターのあかちゃん」

- ・生き物の誕生や成長の様子を知る。
- ・命あるものを大切にする。

## 5. 本時の展開

### (1) 本時の目標

チリメンモンスターを種類別に選別することで、海の中にはたくさんの生きものがあることを知り、海に親しむ。

### (2) 本時の学習過程

(時間)	学 習 活 動	指導上の留意点
15	<p>○チリメンモンスターについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・チリメンジャコは、何の魚であるかを知る。</li><li>・いろいろな小さな生きものが交ざっていることを知る。</li></ul> <p>チリメンモンスターをさがそう (知識・技能)</p> <p>○活動の内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・チリメンジャコの中からいろいろな生きものを見つけ選別する。</li></ul>	<p>○TEAM GASA の前田さんから、チリメンモンスターについて話を聞く。</p> <p>○写真をよく見て形や色の違いに気付くように声をかける。</p>
20	<p>○チリメンモンスターを小魚、エビ・カニ、タコ、イカのグループにわけ。《チリメンコレクションカード》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・いろいろな小さな海の生き物に親しむ。</li></ul> <p>○ボンドで貼る</p>	
10	<p>○本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・海には、小さな魚の仲間、エビや貝、タコやイカなどの生きものがたくさんいることに気付く。</li></ul>	

## 6. 成果と課題

- ・ちりめんモンスターのことを知らない子が多くおり、実際に体験して興味を持って取り組むことができた。
- ・海の生き物がたくさんいることを実感し、もっと知りたいという児童が多くみられた。
- ・ちりめんモンスターの仲間分けをすることで、自然に海の生き物のことをくわしく学ぶことができた。とても楽しく取り組むことができた。

ちりめんモンスターをさがしたよ

2022年11月29日 1組A ぐまん( )



ちりめんモンスターの中で7番  
多かったのがちりめんな  
たちのかいてす。足と目もか  
かなかたら ラインのか?み  
たいなかたちです。その中、小  
さなかにや魚やえびを食べる  
あつちなタチウオ?みかいんのか?も  
まいたかおいからあす。

ちりめんモンスターをさがしたよ

2022年11月29日 1組A ぐまん( )



ちりめんモンスターが  
あつちなタチウオ?みかいんのか?  
です。



## 2年 「海辺の自然をたのしもう」

### 阪南市立舞小学校

#### 1. 単元目標

- 海の生き物の名前や、海の乗り物に関心を持ち、進んで調べることができる。
- 海辺での遊びや生き物などとのふれあいを通して、海の自然に親しみ、進んで海に関わることができる。
- 海藻に興味を持つ。
- 海藻のはたらきを知り、海の環境を守ろうとする意識を高める。

#### 2. 単元の評価基準

##### ○知識・技能

海の漂着物について知り、ビーチコーミングの活動について理解することができる。  
海藻は特徴ごとに種類があることや、日本の文化との関わりが深いことを理解することができる。

##### ○思考・判断・表現

活動を通して気づいたことや感じたことを文や絵に表現することができる。  
海藻の特徴を生かし、自分の表したいものを表現することができる。  
海藻を育む海の環境について考えたことを、文章や絵に表すことができる。

##### ○主体的に学習に取り組む態度

海の漂着物や海岸の様子に関心を持ち、さらに調べようとする意欲をもつことができる。  
身近な海藻について関心を持ち、調べたり表現したりしようとするすることができる。

#### 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	海の漂着物について知り、関心を持つ。（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度）  1. 海の生き物にはどのような生き物がいるのかについて話し合う。 2. ビーチコーミングの活動について知る。 3. 海岸に流れ着いた貝殻や石、流木や海藻などの漂流物について考える。	○生き物を想起しやすいように写真を用意する。

2	2 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         ビーチコーミングで海を感じよう。          (主体的に学習に取り組む態度)       </div> 1. 海辺のいろいろな生き物や漂流物に気づく。 2. ビーチコーミングを通して、海と山や川のつながりに気づく。 3. きれいな貝殻や石、シーグラスなどを見つける。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域 環境創造研究センターの岩井 克己さん ○体調管理に十分気をつけ、定期的 に水分補給をさせる。  ○貝殻や石、シーグラス以外の漂着 ごみの存在も意識できるよう、声か けをする。
3	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         見たこと、かんじたことをワークシ          ートに書こう。(思考・判断・表現)       </div> 1. ビーチコーミングの活動を通して 見たこと、感じたことを観察カード に書く	○前時のふりかえりを想起させ、 生き物以外の海の自然に関心がも てるよう、声かけをする。
4	5 6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         「せかいで一つだけのしゃしん立          て」を作ろう。(思考・判断・表現)       </div> 1. 貝殻や石、シーグラスなどをきれ いに洗い、乾かしておく。 2. 写真立てのフレームに紙粘土を付 け、貝殻、石、シーグラスを置き、 固定する。	
5	1・ 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         海辺にいる生き物や落ちているもの          について知る。(知識・技能)       </div> 1. 海辺に落ちている貝殻やシーグ ラスを見つけ、拾う。 2. 砂浜でカップやバケツを用いて、 サンドアートを行う。	○ビーチコーミングでの学びを活 かして、1年生に教えてあげるよう 声掛けをする。
6	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         海藻について知ろう (主体的に学          習に取り組む態度 知識・技能)       </div> 1. 給食の海藻サラダを思い出す。 何色の海藻が入っていたか。 2. 海藻について知る。 ○海藻の色は3種類 (緑藻、褐藻、 紅藻) ○世界中には海藻が約8000種類 ○日本で食べるのは約100種類 ○海藻万華鏡への見通し	○ワカメ、コンブ、トサカノリ、 フノリなどの色を思い出す。  ○スライド「海藻って？」を見る。

7	2	<p>海藻万華鏡を作ろう（思考・判断・表現）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>海藻の種類やはたらきについて知る。</li> <li>海藻万華鏡の作り方を知る。 海藻の形や特徴を知る。</li> <li>海藻万華鏡を作る。 海藻の形を生かして思い思いの作品を作る。</li> <li>活動をふり返る。</li> </ol>	<p>○海藻のはたらきを知ること で、海藻が育ちやすい海に していかなければいけないこ とに気づけるよう声かけをす る。</p> <p>○海藻の色や形を上手く組み合 わせるよう声かけをする。</p> <p>☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域 環境創造研究センターの河原 美也子さん・TEAM GASA の前 田ゆきみさん</p>
8	3	<p>海藻万華鏡作りをふり返ろう（思考・判断・表現）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>海藻万華鏡作りの活動を思い出す。</li> <li>海藻万華鏡作りをふり返り、絵や文章で表 す。</li> </ol>	<p>○どんな海藻があったか話し合 う。</p>

#### 4. 他教科等との関連

- 国語科「きょうのできごと」「スイミー」「見たこと、かんじたこと」
  - ・「きょうのできごと」「見たこと、感じたこと」では、体験したことを振り返り、文章で表現する。
  - ・「スイミー」では、海の生き物について親しみをもつ。
- 図画工作科「せかいで一つだけのしゃしん立て」
  - ・海岸で拾った貝殻やシーグラスを使ってオリジナルフォトフレームを作り、海への関心を高める。
- 道徳「まいごになった赤ちゃんくじら」「げんきにそだて、ミニトマト」
  - ・自然や生き物に親しみ、優しい心で接しようとする。
  - ・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心を持って接しようとする態度を育てる。
- 生活科「みんな生きている」「大きくそだてわたしの野さい」
  - ・生き物のいる場所や変化に関心をもち、大切に育てようとする。
  - ・野菜が育つ場所や変化の様子に関心をもち、親しみを持って大切にすることができる。
- 音楽科「ぷっかりくじら」「いるかはざんぶらこ」
  - ・リズムにのって楽しく歌い、海の生き物に興味をもつ。

## 5. 本時の展開

### (1) 本時の目標

海岸に落ちている漂着物を拾い集め、観察しながら散策するビーチコーミングの活動を通して、海と森や川とのつながりや海辺に生息する生きものへの興味・関心をもつことができる。

### (2) 本時の学習過程

(時間)	学 習 活 動	指導上の留意点	
5	○ビーチコーミングの説明を聞く。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん	
30	<table border="1"><tr><td>ビーチコーミングで海を感じよう。</td></tr></table> ○海辺のいろいろな生き物や漂流物に気づく。 ○ビーチコーミングを通して、海と山や川につながりに気づく。 ○きれいな貝殻や石、シーグラスなどを見つけ、採集する。	ビーチコーミングで海を感じよう。	○体調管理に十分気をつけ、定期的に水分補給をさせる。  ○貝殻や石、シーグラス以外の漂着ごみの存在も意識できるよう、声かけをする。
ビーチコーミングで海を感じよう。			
10	○本時の学習をふりかえる。 ・ビーチコーミングの活動をふりかえり、海辺の生き物だけでなく、海の環境についても興味を持つ。 ○最後に1人1つ、海の漂着物（ゴミ）を拾って、きれいにする。		

## 6. 成果と課題

### 〈ビーチコーミング〉

- ・海の中まで入って、生き物を探そうとしており、靴や服が少し濡れてしまっていた。また、生き物に夢中になり、漂着物に目を向けさせることが難しかった。服が濡れてしまって、乾かしたいからと採集を中々しない子もいた。
- ・事前のパワーポイントで、西鳥取海岸のことやビーチコーミングについて学習していたので、より興味がわき、ビーチコーミングがさらに楽しみになった。
- ・ビーチコーミング当日は暑かった。活動時間や水分補給が大切。
- ・変わった形の石やきれいな模様の貝殻などを見つけ、夢中になって取り組んでいた。同時に、海にたくさんのゴミが落ちていることに気づくことができた。
- ・海のことに関心を持ったことに関して、岩井さんに積極的に話しかけて、海について学ぼうとする姿勢が見られた。

- ・自分で拾ったものを生かして、楽しみながら写真立てを作ることができた。ビーチコーミングの時に撮った写真を入れ、楽しい思い出作りができた。
- ・活動の後、秋の校外学習で貝殻やシーグラスを見る機会があり、ビーチコーミングの学びを活かして、1年生に教えてあげるなど意欲的に学習を深める児童がいた。



ビーチコーミングに行ったよ

9月22日

シーグラスがいろいろありました。大きいシーグラスや小さいのシーグラスも見つかりました。とてもうれしかったです。おさらのかげも見つかりました。

ビーチコーミングに行ったよ

9月22日

でんきゅうとシーグラスと貝をいろいろ見ました。かききをはげんした先生に言て見つけた貝だよと言ってくれました。海にいろいろなものかながなっていました。そのとき海にごみをくわなうにしようと思いました。

ビーチコーミングに行ったよ

9月22日

シーグラスや貝からをいろいろ見ました。すなの中にシーグラスがありました。岩と岩の間には貝がありました。ビーチにはいろいろな貝もたくさんありました。シーグラスがいろいろありました。とてもうれしかったです。

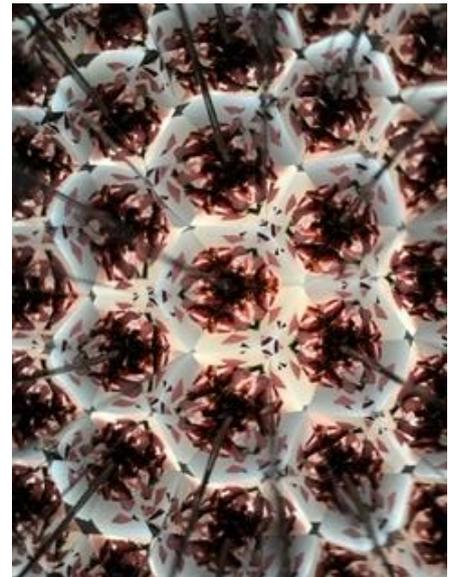
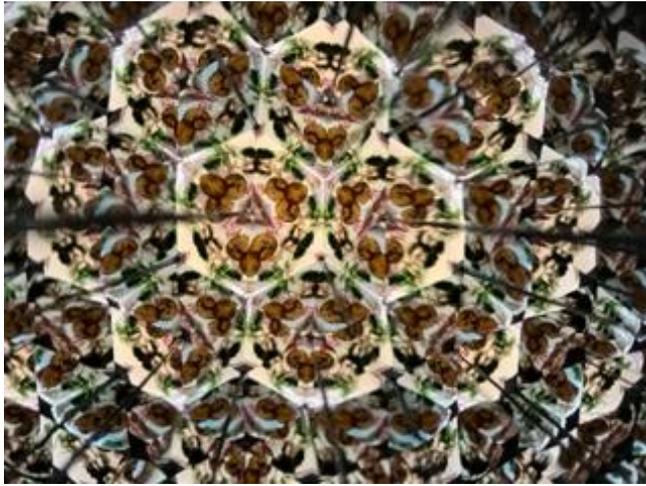
ビーチコーミングに行ったよ

9月22日

たのしかったです。シーグラスや、カニもいろいろ見ました。たのしかったです。すなはまに、いろいろな貝もたくさんありました。シーグラスもたくさんありました。とてもうれしかったです。

〈海藻万華鏡〉

- ・いろいろな色の海藻を組み合わせて、海藻万華鏡を作っていた。
- ・海藻が8000種類あることや、日本では100種類以上の海藻を食べていること、それはほかの国と比べると、とても多いことということを知り、衝撃を受けていた。そして、海藻サラダに入っている海藻や今までに食べていた海藻に興味を持っていた。
- ・万華鏡が何か知らない子もいたが、海藻で作られた万華鏡を実際に見て、「きれい！」「早く作りたい！！」など、積極的に取り組もうとしていた。
- ・作業時間が1時間では少し時間が短いように感じた。休憩時間から始めるなどして、もう少し時間を取れたらいいなと思った。子どもたち同士で、出来上がったものを共有しあうじかんをとっても良かったなと感じた。



海そうおしばを作ったよ

2月17日

たからみた

まえがりみた

今日わたしはまんげきょうというものをかいそでつくりました。つかうのは、ハチとりのりをつかいました。つくりおわってみてみたりとてもきれいでした。たえは「カーネーション」の色のまねださんとか、かわはさくにおしえても、Fに。

海そうおしばを作ったよ

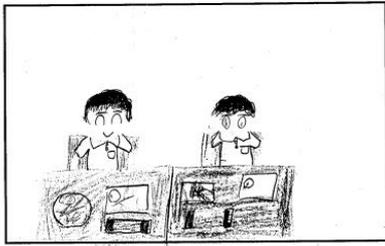
2月17日

こんががえしたよ

ほうえんきょうをまわすと、きれいなおちはみたいなのがみえます。それはあもしろいいろが、アジがある。なんたかおもしろい。まねださんと、かわはさくにおしえても、Fに。

海そうおしばを作ったよ

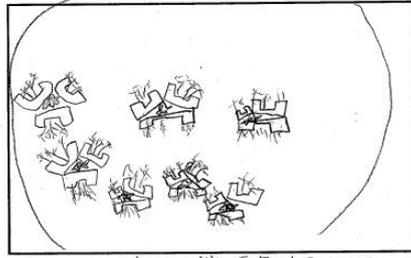
2月17日



みどりの海そが一番かたいのをしりました。  
双るのますくたへんたみど、できそく  
まわしてみたら、すごくきれいでした。  
みんなと交かんしあって、楽しかったです。

海そうおしばを作ったよ

2月17日



がいそうで、みんけきょうをのるちんて  
おももほせてしたちんてむすかしかた  
けどとてもきれいにできました。いろいろ  
なひとみせをいってしたのしなです。

# 3年 単元名 万華鏡づくり

## 阪南市立舞小学校

### 1. 単元目標

- 海藻に興味を持つ。
- 海藻のはたらきを知り、海の環境を守ろうとする意識を高める。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

海藻は特徴ごとに種類があることや、日本の文化との関わりが深いことを理解することができる。

#### ○思考・判断・表現

海藻の特徴を生かし、自分の表したいものを表現することができる。

海藻を育む海の環境について考えたことを、文章や絵に表すことができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

身近な海藻について関心をもち、調べたり表現したりしようとするすることができる。

### 3. 単元の指導計画（全2時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	海藻について知ろう 1. 給食の海藻サラダを思い出す。 ○何色の海藻が入っていたか。  2. 海藻の種類やはたらきについて知る。 ○海藻は3種類（緑藻、褐藻、紅藻） ○はたらき ・海にすむ魚などの生き物の すみか、えさ、卵をうむ場所、赤ちゃんが育つ場所になる。 ・海の水をきれいにする。 ・生き物にひつような酸素（さんそ）をつくる。 ・栄養がある（人間の体にいい）	○ワカメ、コンブ、トサカノリ、フノリなどの色を思い出す。 ○スライド「海藻って？」を見る。
2	2 (本時)	○海の海藻について知る ○万華鏡を作る ○色んな海藻を小さく切る。(2ミリ程)	○外部講師「海藻おしばくらぶ」 (前田さん・河原さん)

#### 4. 他教科等との関連

○理科「植物を調べよう」

- ・植物の育ちや花のようすについて進んで関わり、他者と関わりながら調べようとしている。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

海藻をつかった万華鏡をつくる。

##### (2) 本時の学習過程

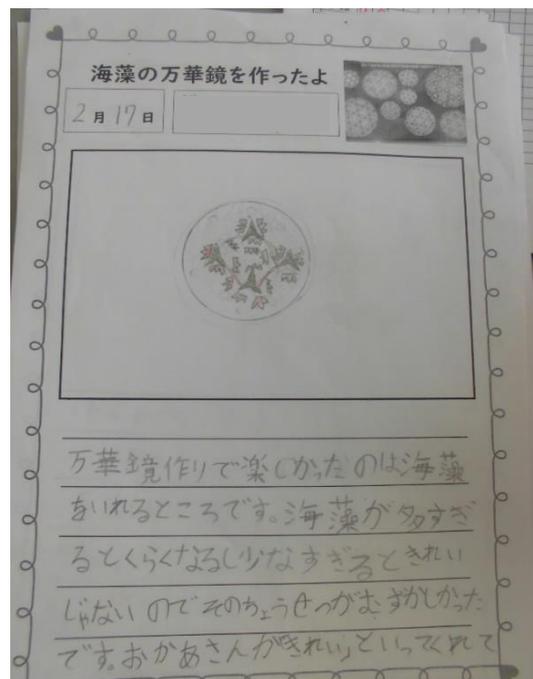
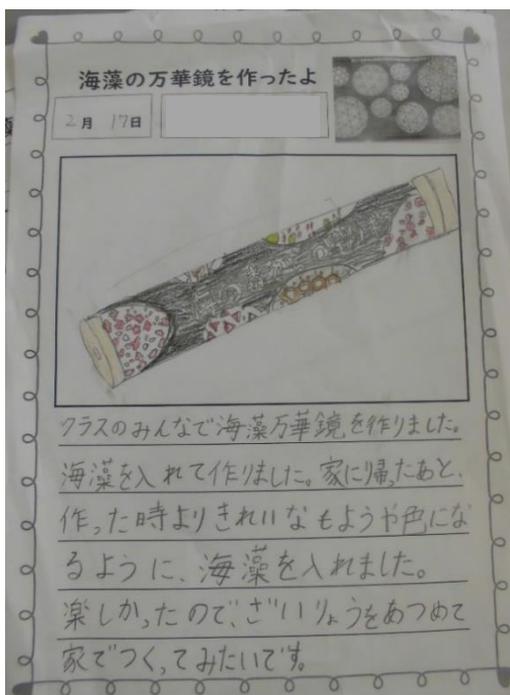
(時間)	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○海の子藻について知る	○海藻おしぼくらぶ(前田さん・河原さん)に教えていただく。
30	○万華鏡をつくる(鏡のシールをはがす・のりではる)  ○海藻を小さく(2ミリ)切る。いろいろな色の海藻をレンズの中にいれる。  ○レンズの中を見て模様を見る。  ○万華鏡のカバーをのりではる。	○鏡の隙間を2ミリほどあけてテープではる。フィルムは一度にはがす。  ○海藻が大きいときれいなもようができにくい。

#### 6. 成果と課題

- ・みんな楽しそうに万華鏡づくりに取り組んでいた。海藻の種類を選びながら自分の好きな模様になるように作ることができた。お家の人に万華鏡を見せたり、作り方をもう一度説明した児童もいた。また、家でも海藻を入れ替えて違う模様にしたという児童もいる。簡単にできて楽しい活動だった。

##### 児童の感想より

- ・海藻を切ったりしたのが楽しかった。
- ・きれいな模様ができ嬉しかったです。
- ・海藻は多すぎたらきれいに見えなくて少なすぎても模様にならないことがわかった。
- ・色が重なってきれいだった。
- ・海藻にいろいろな形があることがわかった。
- ・鏡を2ミリあけたり、海藻を小さく切るのが大変だったけど、お家の人に「きれいだね」って言ってもらえてうれしかった。
- ・レンズの中を写真で撮ったらきれいだった。



海藻の万華鏡を作ったよ

2月 17日



2月17日 三年生で万華鏡を作りました。

海藻を入れるのがとても楽しかったです。いろいろな種類の海藻が、小さく切るだけでも入りました。

少し海藻の量が少なくて、きれいにならなかった。

きれいにできて、うれしかったです。

海藻の万華鏡を作ったよ

2月 17日



万華鏡はいろいろな色が入ると、とてもきれいな景色が、見えます。

いろいろな色を入れたので、きれいにできました。

# 3年 「海苔すき体験をしよう」

## 阪南市立舞小学校

### 1. 単元目標

- ・大阪湾の海苔の養殖について知る。
- ・海苔すきを体験し、食べることで海を身近に感じ、すばらしさを知る。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

- ・大阪湾の海苔の養殖について知り、地元の産業とのつながりを理解することができる。

#### ○思考・判断・表現

- ・海苔すき体験を通して気づいたことや考えたことを、文や絵で表現することができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・海苔すき体験を通して、地元の特産に関心をもち、関わっていこうとする意欲をもつことができる。

### 3. 単元の指導計画（全5時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p>海苔について知ろう（知識・技能）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 昨年とりくんだ海藻おしぼの様子を見る。</li><li>2. 海苔すきの方法について知る。</li><li>3. 海苔すきの枠の下書き書く。</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>○昨年度までの取り組みをふりかえる</li><li>○海苔についてのスライドを示し、視覚的に理解しやすくする。</li><li>○大きくかくが、はしまでかかない。</li><li>○作り方のスライドを示す。</li><li>○やけどをしないように気をつけるよう、声かけをする。</li></ul>
2	2	<ol style="list-style-type: none"><li>1. のりすきのわくの作り方の確認をする。</li><li>2. のりすきのわくを作る。</li><li>3. 隙間がないようにはる。</li></ol>	

	<p>3</p> <p>4 (本時)</p>	<p>海苔すき体験をしよう（主体的に学習に取り組む態度）</p> <p>1. 採れたての海苔を観察する。</p> <p>2. 海苔すき体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海苔すきの説明を聞く。</li> <li>・自分の作った枠に海苔を流し込む。</li> <li>・できた海苔をかかわす。</li> </ul>	<p>☆西鳥取漁協のみなさん</p> <p>☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克巳さん</p>
3	5	<p>海苔すき体験で知ったことを表現しよう</p> <p>1. 海苔すき体験をしたことをふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西鳥取の海の様子（海辺のごみ）</li> <li>・漁協の人の思い</li> <li>・自然のよさ</li> <li>・郷土の産業</li> </ul> <p>2. 海苔すき体験で知ったことや考えたことを文章に表現する。</p>	<p>○体験時の写真を用意しておき、ふりかえられるようにしておく。</p>

#### 4. 他教科等との関連

○社会科「阪南市のうつりかわり」

- ・自然や環境、福祉など、阪南市の特徴をまとめることができる。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

海苔すき体験を通して、地元の特産に関心をもち、関わっていこうとする意欲をもつことができる。

##### (2) 本時の学習過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○採れたての海苔を観察し、海苔すきの枠に入れる前の様子を知る。	○乾燥後と比較ができるよう、写真に残しておく。

35	<p>○海苔すき体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海苔すきの方法を知る。</li> <li>・海苔をすく。</li> <li>・すいた海苔を干す。</li> </ul>	<p>☆西鳥取漁協のみなさん</p> <p>☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克巳さん</p>
5	<p>○活動をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海苔すきをして感じたことや考えたことを交流する。</li> </ul>	

## 6. 成果と課題

- ・阪南市は大阪府下で唯一の海苔の養殖場であることを知り、驚くと同時に「阪南市すごいやん。」と地域に誇りをもっていた。
- ・普段食べている海苔を実際にすくことで、「こんな風にできているんだ。」と驚いた様子であった。手すきを体験したことで、食べ物や、食べ物を作る人々への感謝の気持ちももっていた。



# 4年 「海の生き物にふれよう」

## 阪南市立舞小学校

### 1. 単元目標

アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

大阪湾に多様な生物が生息していることを理解することができる。

#### ○思考・判断・表現

生き物観察から気づいたことを絵や文などに表現することができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

海の生き物に関心をもち、生き物たちがくらす海を守っていこうという意欲をもつことができる。

### 3. 単元の指導計画（全4時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p>大阪湾の生き物について考えよう（知識・技能）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 生き物観察について、活動内容を知り、目的を確認する。</li><li>2. 大阪湾に生息する生き物の種類について、数を予想する。</li><li>3. 海で活動する際の注意点について確認する。</li></ol>	
2	2・3 (本時)	<p>生き物を採集しよう（知識・技能）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. アマモ場に入り、生き物を採集する。</li><li>2. 採集した生き物を観察する。</li><li>3. 海の生き物の分類方法について知る。</li></ol>	<p>☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん・チーム GASA のみなさん</p> <p>○安全確保のため、活動区域を区切る。</p>

		4. 採集した生き物の種類を知る。	○テトラポッドや岩場等、危険な箇所に教職員が立ち、活動を見守る。
3	4・5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観察して気づいたことを表現しよう（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）</div> <p>1. 生き物観察を通して気づいたことをふりかえり、交流する。</p> <p>2. 生き物観察を通して気づいたことを文章と絵に表現する。</p>	○それぞれが見つけた生き物について紹介するなどして、多様性に気づけるように声かけする。

#### 4. 他教科等との関連

##### ○社会科「くらしと水」「大阪府の郷土」

- ・自分たちが使う水がどのようにつくられ、使った水がどのように処理されているのかを理解することができる。
- ・地域の特色に着目し、地形や環境との結びつきについて理解することができる。

##### ○理科「水のすがた」「水のゆくえ」

- ・水が温度によって状態を変化させることを理解する。
- ・水が状態変化することで、自然の中を循環していることを理解する。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

- アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。

##### (2) 本時の学習過程

(時間)	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○海での活動の注意点や、生き物の採集方法について知る。	○海で活動する際の注意点を確認する。
4 5	○アマモ場に入り、生き物を採集する。	○活動区域を区切り、児童に周知する。 ○教職員で分担し、危険な箇所周辺で活動を見守る。
4 0	○採集した生き物を観察する。  ○海の生き物の分類方法について知る。  ○採集した生き物の種類を知る。	○チーム GASA の皆さんから、それぞれの生き物について解説して頂く。 ○生物の種類を知ることで、アマモ場に多様な生き物がいることに気づけるよう、声かけをする。

## 6. 成果と課題

- ・事前に大阪湾に住む生き物について、学習をしていたので、生き物探しも楽しそうに活動していた。
- ・アマモ場にはたくさんの生き物がいるということを実感することができた。
- ・アマモ場で採取した生き物を学校で飼育することで、海の生き物への関心を全校的に高めることができた。児童の中には、水槽の生き物を見ている下級生の子に、海にはたくさんの生き物がいることを教えてあげている子がいた。

# 5年 「自分たちでワカメを育てて収穫しよう」

## 阪南市立舞小学校

### 1. 単元目標

- 海藻と人とのかかわりを知り、海の資源について考える。
- ワカメを種付けし収穫する活動を通して、海の環境問題について考える。
- ワカメという水産資源の収穫を通して、海の重要性を感じる。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

ごみや家庭排水が海へあたえる影響について学ぶ。

#### ○思考、判断、表現

海の環境を守り、より良い関係で共存していくために、調査や体験から課題を見いだしたり、解決方法を考えたりし、自分たちの活動を振り返ることができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

海の環境を守り、より良い関係で共存していくために、進んで調査や体験から課題を見いだしたり、解決方法を考えたりし、自分たちの活動を振り返ろうとしている。

### 3. 単元の指導計画（全3時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<b>海藻と海草について知ろう（知識・技能）</b> 1. 海藻と海草について知る。 2. 海藻の海での役割や人とのかかわりについて知る。 3. ワカメの種付けについて知る。	
2	2	<b>ワカメの種付けをしよう（主体的に学習に取り組む態度）</b> 1. ワカメの種付けの方法を知る。 ○太いロープにワカメの種のついた糸をまきつける。 2. ワカメの種をつける。 3. 今日の活動をふりかえる。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克巳さん

	3 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ワカメを収穫しよう（思考、判断、表現）</div> 1. ワカメの成育の流れや収穫の方法を知る。 2. ワカメの収穫を行う。 3 今日活動をふりかえる。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域 環境創造研究センターの岩 井克巳さん ○ワカメの様子についてよく 観察させる。
--	---------	--	--

#### 4. 他教科等との関連

○家庭科「おいしい楽しい調理の力（調理実習・ゆでる）」

「食べて元気！ご飯とみそ汁（栄養素のはたらき）」

伝統的な日常食であるごはんのみそ汁を作り、食事の役割や栄養バランスを考えることができる。

○社会科「水産業のさかんな地域」

水産資源には限りがあるため、持続可能な漁業の取り組みやそれに関わる人々の工夫や努力、水産物、資源管理について理解することができる。

#### 5. 本時の展開

##### （1）本時の目標

ワカメという水産資源の収穫を通して、海の重要性を感じる。

##### （2）本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○岩井さんからワカメの成育の流れについての話を聞く。 ○岩井さんからワカメの収穫方法の説明を聞く。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域 環境創造研究センターの岩井 克巳さん
25	○ワカメを観察する。 ○ワカメの収穫をする。	○ワカメの様子についてよく観察させる。 ○観察して気づいたことを共有できるように声かけをする。 ○切る際にワカメの様子を見るように声かけをする。
10	○岩井さんからワカメの利用法や保存について説明を聞く。	

## 6. 成果と課題

- ・ワカメの種付けから収穫までを体験できたので、海の恵みを実感できる活動となった。
- ・自分たちで育てたワカメを収穫するときには、とても楽しそうな様子で、ワカメを持ち上げた時に見たその大きさに驚いていた。ワカメを切る際に苦戦したり、根元から切るコツを教え合ったりしていた。
- ・自分たちが植えたワカメは、山・川・海の循環の学習を社会科で行ったこともあり、思い出しながら感想を書く児童もいた。
- ・後日、宿題でわかめの食べ方や調理法をロイロノートで提出させた。おいしく食べるところまで記録し、共有でき、いい機会となった。

### ★活動で感じたことや、学んだことを書きましょう

今日、わかめを取ってこんなに成長するんだなと思いました。
種付けしたのは、12月くらいだけど、今日成長したわかめを見て、
「こんなに成長するんだな...」と思いました。
あと、わかめを取ると、ヌメヌメしていて不思議に感じました。
でも、少しおもしろくて、わかめを切るのも楽しかったです。
メカブもっているが、またじっくり見てみようと思います。
わかめはいつもふつうに食べているものだけど、
種付けをしてそこから、こんなに成長していて、大変な作業だなと思いました。
お母さんが食べるのは小さいのに、たここの栄養が入っているなんて、
すごいなと思いました。
ヌメヌメしていて少し不思議な感じだけど、
逆にもしろいかなと感じました。



メカブはあまり取れないと聞いていたけど、
けっこう小さい中勿か耳又来たのでうれしかった
小さな生き物もいっぱいいて、川カウカ
すごくかわいいなと思った。
ワカメを収穫している時、潮の水がおい
まじくして海にいるなとまじく感じた
家で美味しく食べている所を想像して
収穫していたので、まじくおなかかきました。
ワカメが出てきた場所は、
ワカメのくきの所で、同じ所にエビが
プランクトンみたいな
生き物もいました
家でおなべをして
美味しくいただきます。



### ＜オリジナルレシピ＞ 韓国のりと生わかめおにぎり

#### 材料

- ・塩（岩塩がおすすめ）
- ・生わかめ
- ・韓国のり 1~2枚
- ・ご飯
- ・ごま油 少々（お好みで）

#### 作り方

ご飯にみじん切りしたわかめと塩をかけてよく混ぜる  
握る **完成**

#### 感想

おにぎりは、新鮮なわかめの香りが韓国のりとマッチしてとても美味しかった。by母  
思ったこと  
生で食べるといつものわかめと味がぜんぜん違って工場めっちゃ加工されてるんだなと思った。



かいて  
売ってるよ!



# 6年 「自分たちの考えを発信しよう」

## 阪南市立舞小学校

### 1. 単元目標

- ・身近な環境とのかかわりや与えている影響について調べたことをもとに、よりよい考えをつくりだすことができる。 (知識・技能)
- ・目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思考・判断・表現)
- ・自分たちの生活を見直し、取り組めることを考え、伝えようとするすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

身近な環境とのかかわりや与えている影響について調べたことをもとに、環境を守るためのよりよい考えをつくりだそうとしている。

#### ○思考・判断・表現

目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

自分たちの生活を見直し、取り組めることを考え、伝えようとしている。

### 3. 単元の指導計画 (全18時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○海の栄養がどこから来ているのか考える。 1. 昨年度の「ワカメの学習」を思い出す。 2. ワカメなどの海藻や魚のエサとなるプランクトンを育てる栄養がどこから来ているのか予想する。	○ワカメの種と収穫時のワカメの写真を提示し、比較させる。 ○副読本P20の記述を参照する。
2	2	○山・里・川・海のつながりについて知る 1. 山や海の観察をする。 2. 水・栄養の循環について知る。 3. 山の環境問題について知る。	☆講師：きしわだ自然資料館 田中正視さん

	3・4	○山で作られる栄養について知る。 1. 『山に木を植えました』の本を読み、「フルボ酸」について知る。 2. フルボ酸について調べ、わかったことをまとめる。 3. フルボ酸の材料を集める。	○インターネットの情報だけでなく、本なども活用できるよう準備をする。
	5	○フルボ酸を作る。 1. 集めた材料をもとにフルボ酸を作る。 2. 完成したフルボ酸の活用法を考える。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 岩井克巳さん
3	6	○作成したフルボ酸を植物等に使い、成長記録をとる。 1. フルボ酸を与えるものと、与えないものを用意し植える。	○結果が出るまで時間がかかるため、事前に植物を植える準備をし、計画的に行う。
	7 ・ 8	○成長した植物の比較をし、効果を確認する。 1. フルボ酸を与えたものと、与えなかったものの成長度合いや見た目などを比較し、気づいたことを共有する。 2. 結果から考えられるフルボ酸の効果についてまとめる。 3. フルボ酸の活用方法について交流する。	○第7時まで定期的に成長記録をとる時間を確保する。 ○野菜は糖度計を使い客観的に味を確認する。
4	9 ・ 10 (本時) ・ 11 ・ 12 ・ 13 ・ 14 ・ 15 ・ 16	○これまでに取り組んだ海の学習をふりかえり、そこからわかったことを整理し、まとめる。 1. ロイロノートで気づいたことや考えたことを共有する。 <b>2. 学んだことの中から自分が最も関心のある事柄を選び、フルボ酸との関係を調べる。</b> 3. 調べたことをまとめ、自分が伝えたいことを考える。 4. 発表内容の概要と発表方法を検討し、決定する。 5. 発表資料を作成する。 6. 学級で中間発表を行う。 7. 発表資料を完成させる。	○前年度までの学習もふりかえることができるよう、活動写真を提示する。 ○フルボ酸を水・栄養の循環のキーワードとして提示し、これまでの学習をまとめる視点として意識させる。 ☆これまでお世話になったゲストティーチャーの方に質問ができるよう手配しておく。 ○国語科の学習と関連させ、発表方法の特性を確かめ、適切な方法を選択するよう確認する。

5	17 ・ 18	○自分の考えを発信し、学習をふりかえる。 1. 発表資料をもとに自分の考えを伝える。 2. 学習をふりかえり、今後の自分と海との関わり方について考える。	
---	---------------	--	--

#### 4. 他教科等との関連

○国語科「聞いて、考えを深めよう」

- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。

○国語科「私たちにできること」

- ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
- ・目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

○理科「生物どうしのつながり」

- ・生物は空気や水や栄養を通してかかわり合って生きていることを理解できる。

○理科「自然とともに生きる」

- ・身近な環境とのかかわりや与えている影響などの調べたことをもとに、より妥当な考えをつくりだし、自分たちの生活を見直そうとする。

○特別の教科 道徳「愛華さんからのメッセージ」

- ・自然環境を大切にし、持続可能な社会の実現に努めようとする態度を育てる。【自然愛護】

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標／副読本活用のねらい・効果

学んだことの中から関心のある事柄を選び、フルボ酸との関係について考えることができる。

##### 【副読本活用のねらい・効果】

副読本の記述を参照することで、これまで学習したことの確認をしたり、水・栄養を通したつながりがあることに気づいたりするための、資料としての活用をねらう。また、本校で取り組んでいない活動についても着目することにより、発信に向けての視野を広げる効果をねらう。

##### (2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	副読本の活用の仕方／副読本活用の留意点
5	1. 前時までに出了気づきをふりかえる。 (全体・個人)	○ロイロノートで前時までに共有したカードを使い、関心のある事柄を複数選んでおくよう指示する。	

		○フルボ酸の役割と、川・海との関連を再確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">         これまでの活動とフルボ酸とのつながりを見つける       </div>		
3 5	2. 関心のある事柄についての情報を副読本や web から集める。 (個人・3人組)	○web 上の情報だけに偏らないよう、副読本から必ず情報収集することを確認する。	○副読本を資料集として活用する。グループで選んだ活動と関わりのあるページを参照するように声をかける。
	3. これまでの海の活動とフルボ酸とのつながりは何かをまとめる。 (3人組) ・フルボ酸が運んだ栄養が、ワカメの成長に役立っている。 ・海の生き物たちのエサとなる植物プランクトンの成長にフルボ酸が関わっている。 ・のりや、海藻の成長にも栄養が必要で、フルボ酸が関係している。	○はじめに選んだ活動について早くまとめ終わったグループには、他の活動についても考えてみるように指示する。	○海の活動について書かれたページ以外にも、関係のありそうなページを参照するように声をかける。
	4. 自分たちが選んだ海の活動とフルボ酸のつながりについて発表する。 (全体)		
5	5. 本時のふりかえりを行う。 (個人)	○各活動とフルボ酸とのつながりを考えて、気づいたことを書くように指示する。	

## 6. 成果と課題

ロイロノートを活用し、発表や交流を行うことで、交流の準備にかかる時間が削減され、じっくりと考える時間をとることができた。今回の授業はこれまでの海の活動の総まとめとしたが、前時までにフルボ酸づくりの活動と水の循環についておさえていたことで、これまでの活動と自分たちの住む陸地とのつながりを意識させることができた。

また、本時の学習を経て、子どもたちの海とのつながりについての意識が一層高まり、他教科の学習での発言にもその様子が見てとれた。さらに、単元のまとめとして本年度は海の活動についての紹介動画づくりに取り組んだが、そこで話す内容についても本時の内容を活かしたものが使われ、自分たちに取り組めることについても言及があるなど、本単元の目標とする姿にせまる場面も見られた。

今後は発信する場や相手にさらに広がりをもたせ、自分たちにできることについてより深く考えさせることに課題が残るため、来年度に取り組みたい。

山と海は繋がっている。  
山で環境にいいことをすると、海にも良い影響が出る。  
海を大切にすれば、山の大切なしないといけない。

フルボ酸は、山から川そして海に行くことがわかり、海に栄養を与えることが繋がりだと思いました。この学習をして山から川にながれるから川に住む、鮭などの生き物にもフルボ酸は役立つとわかりました。

これまで何気にやってた授業が最後に、一気につながる映画とかの伏線みたいになっててすごいビビった。  
あとフルボ酸活躍しすぎ。

自分たちが海の学習をやってきたのと、さいごのフルボ酸は繋がっていたことがわかった。海はフルボ酸があるととてもよくなることがわかった。

令和4年度 海洋教育年間指導計画					阪南市立上荘小学校									
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年生				ビーチ コーミング			石ころアート		SDGS授業 「大阪湾について」		SDGS (マイボトルイ ラスト)	ちりめん モンスター		
	関連教科・ 学習等			生活			生活・図工	国語「海のか くれんぼ」	生活		生活・図工	生活		
2年生				ビーチ コーミング			石ころアート		SDGS授業 「SDGsと 下水道につ いて」		SDGs授業 「マイボト ルについて」	チリメンモ ンスター		
	関連教科・ 学習等			生活			生活・図工	道徳「まいごに なった赤ちゃん くじら」	生活	生活・図工	生活			
3年生				海の生き物 みつけ					SDGS「海 をきれいに するため に」		SDGS (マ イボトルイ ラスト)		海藻おしぼ	
	関連教科・ 学習等			理科「植物の育ち とつくり」				理科「植物の一 生」				社会「昔のくら し」		
4年生				アマモの生 息について 知る			アマモ花枝採 取・生き物一 斉調査	新聞づくり		SDGS授業 食品ロスにつ いて」		SDGS授業 くら寿司	海藻を使った 万華鏡づくり	
	関連教科・ 学習等			総合/副読本 「海を活かした 海洋教育」			総合/社会「暮 らしを支える 水」	総合/国語「新 聞を作ろう」				総合		
5年生				お米がで きるまで (ゲスト ティーチ ャーJ.A. ・草竹さ ん)			田植え体験	箱刈りに行こう (ゲストティー チャー)	SDGS授業 (海の問題につ いて) アマモの種付け をしよう。		学習した ことを他学 年に伝えよ う。	ワカメの取 り方 ・ワカメの取 り方 ・ワカメの取 り方 ・ワカメの取 り方		
	関連教科・ 学習等			総合(私たちの 食生活を支える 食料生産)			社会(水産業の さかんな地域)	総合(米作りの 探検隊になろう)	総合(海の問題につ いて考えよう)					
6年生							海岸清掃 ・生き物一斉調 査					SDGs (マイ ボトルイラス ト) ・地理の水との 関わり	SDGs (わた したちにできる こと) ・浪花酒造見学	
	関連教科・ 学習等			総合(海の豊か さを守ろう)			理科(生物どう しのつながり) 総合(海の豊か さを守ろう)					総合(つながる世 界と日本) 社会(つながりの 深い国々のくら し) 理科(自然ととも に生きる)		

# 1年 単元名 「阪南市の自然にふれあおう」

阪南市立 上荘小学校

## 1. 単元目標

- 海の生き物に興味・関心をもち、阪南市の海にふれあう。
- 海洋教育について知り、身近な自然に親しむことができる。

## 2. 単元の評価基準

### ○知識・技能

阪南市の海に生息する生き物について知る。

### ○思考・判断・表現

ビーチコーミングを行い、見つけたものや収集したものについて、触れたり感じたりしたことを分かりやすく絵や文で表現する。

### ○主体的に学習に取り組む態度

身近な海や川に興味を持ち、ビーチコーミングをすることができる。

ビーチコーミングを通して気づいたことやわかったことをワークシートにまとめることができる。

## 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1時間	○ビーチコーミングについて学習する。【生活】 ・海の漂着物について知り、興味・関心を持つ。 ・ビーチコーミングの活動について知る。	
2	2時間 (本時)	○ビーチコーミングに行き、海の生き物や漂着物を見つける。【生活】 ・浜辺の石を見つける。 ・身近な海に生息する生き物を知り、海岸などに打ち上げられた漂着物を集め、観察する。 ・集めた貝殻・石、見つけた生き物について、分かったことや知ったことなどをワークシートに書く。 ・ビーチコーミングを通して、海・山・川・里のつながりに気づく。	○海辺での活動での注意を事前に伝える。 ☆外部講師に講師依頼。 ○ワークシートに記入する内容を詳しく伝える。(見たこと、分かったこと、気付いたことなど。) ○行っても良い場所と危険な場所の確認をする。(深い場所には行かない等。)

3	3時間	○石ころアートをする。【図工】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビーチコーミング時に集めた石で、石ころアートをする。</li> <li>・石の形を写し、その形を何かに見立てて描くようにする。例：△の形→おにぎり等。（下書き）</li> <li>・下書きを元に絵を描いていく。</li> </ul>	準備物 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピグマックス</li> <li>・油性ペン</li> <li>・色鉛筆</li> </ul> ○石に絵を描くだけでなく、その石を何かに見立てて描くようにする。（例えば、亀や目玉焼き等）
4	2時間	○ちりめんモンスターを探す。【生活】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちりめんモンスターについて知る。</li> <li>・用意してくれたおさかなシートを元に、何の生き物かを見つける。</li> <li>・自分で見つけたチリメンモンスターを種類で分けて貼り付ける。</li> </ul>	☆外部講師に講師依頼。

#### 4. 他教科等との関連

##### ○国語科

- ・「海のかくれんぼ」
- ・「くじらぐも」

##### ○生活科

- ・「SDG s マイボトルデザイン」
- ・「SDG s 大阪湾について」

#### 5. 本時の展開

(1) 本時の目標／副読本活用のねらい・効果

○海岸に落ちている漂着物や生き物等を拾い集め、観察する。

○ビーチコーミングの活動を通して、海・山・里・川のつながりや海辺に生息する生きものへの興味・関心をもつことができる。

(2) 本時の学習過程

(時間)	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
10分	○ビーチコーミングの説明を聞く。	○素手で触らないように注意を払う。 ☆外部講師から、ビーチコーミングについて話を聞く。  ※体調管理に気をつけ、水分補給させる。 ○行っても良い場所と危険な場所の確認をする。 (深い場所には行かない等。)

30分	<p>○海辺のいろいろな生き物や漂流物に気づく。</p> <p>○ビーチコーミングを通して、海と山や川のつながりに気づく。</p> <p>○石ころアートの活動につなげるため、自分で見つけた石を拾い、持って帰る。</p>	<p>○石は、大きすぎないように自分の手の大きさと同じぐらいの石を拾うように声かけする。</p>
5分	<p>○ふりかえり</p> <p>ビーチコーミングで見つけた生き物について、絵と文でワークシートに書く。</p>	

## 6. 成果と課題

- 最初は、「海洋教育ってなんだろう？」と言っていたが、一年を通して興味関心を持つ児童が増えた。
- ビーチコーミングでは、生き物に触れることが苦手だった児童も、みんなで活動することで「少しだけでも触ってみよう。」等の声を聞くことができた。
- 海洋教育の年間計画を立てているが、単発的な活動になってしまうため、いろいろな教科の学習と系統立てて活動していく必要があると感じた。

## 2年 単元名 「海洋教育ってなあに」

阪南市立上荘小学校

### 1. 単元目標

- 海洋教育について知り、自分たちが住んでいる地域の自然に親しむことができる。
- 海の生き物にふれたり、漂着物を採取したりして、海に興味を持つことができる。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

海の生き物について知ることができる。

#### ○思考・判断・表現

身近な海や川にどのような生き物が住んでいるか考えることができる

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・身近な海や川に興味を持ち、ビーチコーミングをすることができる。
- ・ビーチコーミングを通して気づいたことやわかったことをワークシートにまとめることができる。

### 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○海洋教育について知る。【生活】 ・海洋教育がどのようなものなのかを知る。 ・地図を見ながら、大阪府や阪南市の海について知る。	○児童たちに海洋教育について地図や簡単なイラストを使って分かりやすく説明する。
2	2	○ビーチコーミングに行き、海の生き物や漂着物・浜辺の石を見つける。【生活】 ・身近な海に生息する生き物を知り、海岸などに打ち上げられた漂着物を集め、観察する。 ・集めた貝殻・シーガラス・石、見つけた生き物について、分かったことや知ったことなどをワークシートに書く。	○海辺での活動での注意を事前に伝える。 ☆外部講師に講師依頼。 ○ワークシートに記入する内容を詳しく伝える。(見たこと、分かったこと、気付いたことなど。)
3	3 (本時) 4	○石ころアートをする。【図工】 ・ビーチコーミング時に集めた石で、石ころアートをする。 ・石の形を写し、その形を何かに見立てて描くようにする。(下書き) ・石に描いていく。	準備物 ・クレパス  ○石に絵を描くだけではなく、その石を何かに見立てて描くようにする。

4	5 6	○チリメンモンスターをする。【SDGs】 ・ちりめんじゃこの中から、ちりめんじゃこ以外の生物を見つける。	☆外部講師に講師依頼。
---	--------	---	-------------

#### 4. 他教科等との関連

- 国語科 「スイミー」
- SDGs 「プラスチック廃棄ごみや、下水や浄水場の仕組みについて」  
「チリメンモンスター」

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標／副読本活用のねらい・効果

- ビーチコーミングで集めた石に絵を描き、友達に見せ合う。
- ・副読本の活用→P10を提示し、石ころアートについて、できあがりのイメージを持たせる。

##### (2) 本時の学習過程

(時間)	学 習 活 動	指導上の留意点	副読本の活用の仕方／ 副読本の活用の留意点
10	○学習内容とめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">石ころアートをしよう。</div> ○石ころアートの説明をする。 1. 白い紙に石ころの形をかたどる。 2. ひらめいたものを、白い紙に下書きとして描く。 3. 下書きを見ながら、クレヨンで石ころに色をつける。	○実際に作ったものを提示し、これからする活動についての見通しをもたせる。  ○石の形の着目することで、何かに見立てて、変身させることをつたえる。	○副読本 P10 掲示 見本を提示することで、完成したものへのイメージを持たせる。  ○大切な部分を読ませ、共通理解をする。
25	○白い紙に石を描き、下書きをする。	○変身のアイデアを出すのが難しい児童には、個別で声掛けを行う。	
10	○友だちの石ころアートを見せ合う。	○友だちの作品の良さを見つけて、伝えさせる。	

## 6. 成果と課題

- ビーチコーミングに行く前に、身近な自然について考えさせることで、尾崎海岸や男里川などがあることに気付かせることができた。また、ビーチコーミングでは、実際に尾崎海岸に赴き、海に入ること、川や海には様々な生き物がいるということを知ることができた。
- ビーチコーミングの際に集めた漂流物(石)を使った石ころアートでは、発想することの楽しさを知り、様々な見方で作品を作っていた。
- チリメンモンスターの活動では、普段見ないような視点から見ることで、また違った楽しさを味わえることを知ることができた。
- 何よりも、2年生の児童の多くが、海の活動(海洋教育)に積極的に取り組み、川や海に興味を持つことができた。
- 課題としては、ビーチコーミングで発見した生き物について調べたり育てるといった学びを広げる活動ができなかった。

# 3年 「エコボトルのデザインを考えよう」

## 阪南市立上荘小学校

### 1. 単元目標

- 海の生き物に興味を持つ。
- 海の環境汚染について知り、海の環境を守ろうとする意識を高める。
- 海の環境を守るために、自分たちができることを考える。

### 2. 単元の評価基準

- 知識・技能
  - ・海の生き物について知ったことや、環境問題について考えたことを書くことができる。
- 思考・判断・表現
  - ・海の環境問題について考えたことを絵で表現することができる。
- 主体的に学習に取り組む態度
  - ・海の生き物について興味を持ち意欲的に取り組もうとしている。
  - ・海の環境問題について主体的に考えようとしている。

### 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p>ビーチコーミングに行って、海の生き物を観察しよう。</p> <p>1. 海へ行き、カニや貝などを見つけ、海の生き物に興味を持つ。</p> <p>2. きれいな石や貝殻を拾う。</p>	☆外部講師に来てもらい、海の生き物について詳しく説明してもらおう。（貝の種類など）
2	2 3 (本時)	<p>海の環境について知ろう。</p> <p>1. 海の生き物について知る。</p> <p>2. 海の環境汚染となっているプラスチックごみについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・普段使っている物が海のごみとなり、海で暮らす生き物の住処が減ったり、汚染物質に影響を受けた海産物が人体に影響を及ぼせたりしていることについて知る。</li></ul>	☆外部講師に来てもらい、海の生き物について教えてもらう。 ☆外部講師より、プラスチックごみがどのように海の生き物に影響を及ぼしているかを詳しく教えてもらう。

3	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">海の環境について伝えよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海の環境汚染についての学習を振り返る。</li> </ol>	
	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 海の環境を守るために自分たちができることを考える。</li> <li>3. 自分たちが伝えたいことの絵を描く。</li> </ol>	
4	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">海藻おしばを作ろう。</div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海藻おしばの作り方を知る。</li> <li>2. 海藻おしばを作る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビーチコーミングや海の絵を描いた時のことを思い出しながら作品を作る。</li> </ul> </li> <li>3. 活動のふり返しをする。</li> </ol>	<p>○タブレットで、描きたい生き物を調べる。色使いに気をつけて、色を塗る。</p> <p>☆外部講師に来てもらい、海藻の種類や海の生き物について教えていただく。</p>

#### 4. 他教科等との関連

○理科「植物の育ちとつくり」（6月）

- ・植物は、根・くき・葉からできていることを理解する。

○理科「植物の一生」（10月）

- ・種から発芽し、子葉が出て、葉が茂り、花が咲き、実ができた後に枯死するという植物の生長の順序や、体のつくりについての考えをもつことができる。

○社会「昔の暮らし」

- ・東鳥取公民館にある「歴史資料展示室」へ行き、阪南市の農業や工業、漁業について知る。また、阪南市のたこぼ漁という伝統的な漁業について詳しく教えてもらい、阪南市の漁業について興味を深める。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標

- ・海を取り巻く現状を知り、海の環境について興味を持つ。
- ・海の環境を守るために自分ができることを考え、絵で表現する。

##### (2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海の環境汚染についての学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックごみや排水が海の生き物や人体に及ぼす影響について振り返る。</li> </ul> </li> </ol>	

海を守るためのエコボトルのデザインを考えよう（表現・発信の力）		
10	<p>2. 海の環境を守るために自分たちができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックごみを減らすことや、ごみを持ち帰ること、ごみ拾いをする等、自分たちができることについて話し合う。</li> </ul>	
25	<p>3. 自分たちが伝えたいことの絵を描く。</p> <p>○海の絵を描く児童は、ビーチコーミングへ行ったことを思い出し、表したいものを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いで出た内容だけでなく、美しい地球環境にするための取り組みでも良いこととする。</li> <li>・タブレットを用い、描きたい生き物を調べる。色使いに気を付けて描くよう指導する。</li> </ul>
5	<p>4. 活動のふり返しをする。</p> <p>○活動をふり返し感じたことや、思ったことを発表する。</p>	

## 6. 成果と課題

- ・海が汚れないために、「ごみを捨てずに持ち帰ることが大切」、「ごみが落ちていたら拾う。」「プラスチックが風で飛んで行って海に落ちることもあるので、プラスチックバッグは使わず、エコバッグを利用する。」等の意見が出た。
- ・ごみを捨てないことや持ち帰ることが海を守ることに繋がると、子どもたちは理解することができた。
- ・リサイクルをすることで、ごみを減らすことができると気づくことができた。
- ・海の生き物に触れることで、生き物を大切にしようとする心情が生まれ、「海を大切に守りたい」と意識付けをすることができた。

# 4年 単元名 「阪南の海を守ろう」

## 阪南市立上荘小学校

### 1. 単元目標

- 「海のゆりかご」と呼ばれるアマモの育成に携わることで、海の生き物や環境について学び、海を守り育もうとする意識を高め、環境保全学習に取り組む姿勢を育てる。
- 海について学んだことや感じたことを表現するために必要な知識や手法を身に付け、積極的に他者に伝え、お互いの考えを交流しようとする態度を養う。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

- ・尾崎の海に生息するアマモや浜辺の生物の生態について、副読本を使った調べ学習や、講師の先生からの話を通じて学ぶ。
- ・学習したことを比較・分類しながら新聞にまとめことができる。

#### ○思考、判断、表現

- ・アマモの育成や生き物調査を通じて知ったことや感じたことを、わかりやすく伝えるために段落相互の関係や文章の構成を考えて書くことができる。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・尾崎の海について知識を得る中で興味・関心を高め、より深く学ぼうとする。

### 3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆外部連携	
1	1 (本時)	<table border="1"><tr><td>海の生き物について知ろう</td></tr></table>	海の生き物について知ろう	
海の生き物について知ろう				
	2	1. 海の生き物について調べる。 ・海の生き物にはどんな生き物がいるのかを知る。 ・アマモとは何なのかを知る。 2. アマモの役割をまとめる。 ・アマモが『海のゆりかご』と呼ばれる理由を知る。	○タブレットを用いて、海の生き物やアマモについて調べる。  ○アマモの海での役割を考えさせる。	

2	3	海との関わりを知ろう	
	4	<p>1. 海との関わりを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちの生活は海と関わって過ごしていることを知る。</li> <li>・自分たちにはどんなことができるのか考える。</li> </ul>	<p>☆外部講師から、自分たちの生活と海との関係を教えていただく。</p>
3	5	アマモの花枝と生き物を採取しよう	
	6	<p>1. アマモの花枝とその採取方法について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマモの花枝を観察し、どんなところに育っているかを知る。</li> </ul> <p>2. 地引網を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜辺にどんな生き物がいるのか観察する。</li> </ul>	<p>☆外部講師から、アマモの花枝と、その採取方法について説明していただく。</p> <p>○海に引率し、アマモの花枝採取と生き物調査を行う。</p> <p>※準備物（講師さんが持参）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防水デジタルカメラ（多数）</li> <li>・振り返りワークシート</li> </ul>
4	7	学習したことを新聞にまとめよう	
	8	<p>1. 調べたことや、体験したことを新聞にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズ形式・グラフや絵を用いてまとめる。</li> </ul>	<p>○字だけでなく絵やグラフなどを用いてわかりやすく説得力のある新聞に仕上げられるようにさせる。</p>

#### 4. 他教科等との関連

##### ○国語科「新聞を作ろう」

- ・水みらいセンターの見学や清掃工場の調べ学習を通じて、ゴミ問題についてそれぞれが関心を持ったテーマで新聞を作成する。

##### ○社会科「ゴミの処理と活用」

- ・水みらいセンターの見学を通して、下水処理の大切さを知る。
- ・ごみ調べを通して、プラスチックゴミの問題を知り、自分にできることは何なのかを考える。

#### 5. 本時の展開

##### (1) 本時の目標／副読本活用のねらい・効果

○アマモについて知る。/アマモの役割を知る。

○アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。/アマモの育て守っていかうとする態度を育てる。

(2) 本時の学習過程

(時間)	学 習 活 動	指導上の留意点	副読本の活用の仕方／ 副読本の活用の留意点
10	○アマモについて知る。 ・ 阪南の海のアマモが減少していることを知る。 ・ アマモの役割を知る。	・ 阪南の海のアマモの生態について考えさせる。	・ アマモが海の生き物にとって大切な存在であると考えさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>アマモが『海のゆりかご』と呼ばれる理由を考えよう。</b> </div>			
25	○アマモの一年間を知る。 ・ アマモの成長を知る。 ・ アマモの育て方を知る。	・ 植物の成長について理科の学習を結び付ける。 ・ 次の学習のアマモの花枝と種の採取について興味を持たせる。	・ アマモも他の植物と成長の仕方は同じであると考えさせる。
10	○ふりかえる。	・ もっと調べたいこと、わかったことをまとめさせる。	・

6. 成果と課題

- ・ 海洋教育に取り組む中で、身近にある、山、川、里も海とつながっていることに気づくことができた。
- ・ 海にあるごみのほとんどが自分たちの家から出る家庭ごみであると気づき、ごみを減らしていかななくてはいけないと考えることができた。
- ・ 尾崎の海のアマモの花枝と種の採取活動では、「尾崎の海にこんなにたくさんの生き物がいるんだ。」「尾崎の海を大切にしよう。」「アマモがたくさんの生き物を守っているんだ。」と考え、阪南市の海を大切にしようと考えていた。
- ・ 阪南市の海をきれいにしていくために、一人ひとりが自分にできることは何かを考えることができた。

# 5年 「米作り探検隊になろう」

## 阪南市立上荘小学校

### 1. 単元目標

- ・校区の米作りを体験したり米作りについて調べたりすることを通して、農家の人の工夫や努力を知ることができる。
- ・米作りの体験を通して、おいしいお米を作るためにはきれいな水が必要であることや、山・川・海はつながっていることに気づきそれを守っていこうとする態度を養う。

### 2. 単元の評価規準

#### ○知識・技能

山・川・海はつながっていて、それらの自然は、自分たちの生活と深い関わりがあることを理解している。

#### ○思考・判断・表現

米作り体験などを通して、身近な環境問題に関心をもち、環境問題を自分の問題として捉え、必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して表現したりしている。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

友達と協力して課題解決や実践に取り組むとともに、環境保全のために自分にできることを考えることができる。

### 3. 単元の指導計画（全14時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○ゲストティーチャーを招き、米作りに関する話を聞く。	☆JA 大阪泉州の方と地域の農家の方から米作りの話を聞く ○農家の人から実際に話を聞くことで、米作りの大変さや思いを知ることができるようにする。 ○これからの学習についての見通しを持たせる。
2	2 3	○校区の田んぼで、田植えをする。(校外学習)	○実際に田んぼの中に入り、田植えをすることを通して、大変さを知り、米作りに興味を持つようにする。

3	4～5	○米作りについてもっと知りたいことを調べる。 ・米の歴史・米の栄養と働き・米の変身・米の種類など	○社会科で学習したことをもとに、もっと知りたいことを調べる。
4	6 7	○稲刈りをする。(校外学習)	☆地域の農家の方と稲刈りをする。 ○自分たちが植えた苗が大きく成長していることに気づき、愛着を持って収穫をするようにする。
5	8	○作ったお米をみんなで食べる ・阪南市でとれたのりと一緒に食べる。	○自分たちの町でおいしいものがとれる良さを味わいながら食べる。
6	9	○おいしいお米をつくるためには、川の水が深く関わっていることを知り、山・海・川の間わりを調べる。 ○海が汚れてしまったら、どんなことが起こるのか考える。	○米作り体験や、漁港見学を振り返りながら考える。 ○水は循環していて、山・川・海はつながっていることを知り、自分たちが植えた苗に必要な水は、どこから来ているのか地図をみながら調べる。
6	10 (本時) ～12	○山・川・海を守るために自分たちができることを考える。 ・よごれた海で起きていることを知る。 ・阪南市の自然を守るために、自分たちにできることを考える。	○山・川・海が汚れてしまったら、どんなことが起こるかグループで副読本を使い調べるようにする。 ○山・川・海を守るために自分にできることをグループの友だちと考えるようにする。
7	13 14	○学習したことを、上荘小学校のみんなに伝えよう。	○学んだことを伝える方法を考える。 ○グループで考えた方法で、伝えに行く。

#### 4. 他教科等との関連

- 国語科「みんなが過ごしやすい町へ」「グラフや表を用いて書こう」「新聞を読もう」  
「よりよい学校生活のために」
- 社会科「わたしたちの生活と食料生産」
- 理科「流れる水の働き」

## 5. 本時の展開

### (1) 本時の目標

○副読本を使い、山・川・海がつながっていることに気付くことができる。

○米作りや漁港見学を通して学んだことを、友だちに伝えアドバイスしあうことができる。

### (2) 本時の学習過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	副読本の活用の仕方／ 副読本活用の留意点
15	<p>○前時までの学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米作り（田植えや稲刈り）を通して思ったことを振り返る。</li> <li>・お米を作るには、きれいな水が必要なこと、草竹さんの田んぼの水はどこから来ているのかふりかえる。</li> <li>・里海公園の砂浜の写真から考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲刈りをした時の思ったことや、実際にきたお米を食べてみて思ったことをふりかえる。</li> <li>・P18の地図を見て、川の近くに田んぼがあることに気付くようにする。</li> <li>・川が海につながっていることを確認する。</li> <li>・P22を読み、おいしいお米を作るためには、山・川・海が深く関わっていることに気付くようにする。</li> </ul>	<p>副読本 P18・P22 を読み山・川・海のつながりに気付くようにする。</p> <p>P22「水の循環」を見ながら考える</p>
20	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>グループで考えたプロジェクトについて、友だちに伝えアドバイスしあおう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでジャムボードにまとめたことを発表する。</li> <li>・もっとこうしたら良いなと思うことや良かったところを伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山・川・海が深く関わっていることに気付き、川が汚れたらどうなるか、海が汚れたらどうなるか考えるようにする。</li> <li>・おいしいお米や海苔がとれる自然豊かな阪南市を守るためにできることを考えながら発表する。</li> </ul>	
10	<p>○ふりかえりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いて思ったことやアドバイスをもらって思ったことをワークシートに書く。</li> <li>・次の時間の学習の進め方を確認する。</li> </ul>	

## 6. 成果と課題

違うグループの友だちにアドバイスをしてもらうことで、自分たちでは気づかなかったことをアドバイスしてもらうことができ、次への時間につなぐことができた。

アドバイスする時のポイントとして、一つ目は良かったこと、二つ目は、もっとこうした方がもっとよくなることを伝えるようにした。ポイントをしっかりおさえることで、否定的な言葉はなく、友だちのがんばりを認めた上でより良いものを作り上げようとする思いを共有することができた。

「もっと、わかりやすい言い方に変えた方が低学年に伝わると思う。」「ここは、もっと詳しく説明した方がわかりやすいと思う。こうしてみたら？」など具体的なアドバイスができていた。

具体的にアドバイスを伝え合うことで、他学年に伝えるスライド作りは、アドバイスを参考にしながら工夫して作ることができた。

「山・川・海はつながっていて、海で起きている問題だけでなく、阪南市の魅力も伝えることで、こんなに素敵な自分たちのまちを守っていこう、大好きになろう」という思いも伝えることができた。ただ単に学習してわかったこと、調べたことをスライドにまとめるだけではなく、タブレットを使い自分たちでオリジナルの紙芝居を作るグループもあった。セリフを考えたり、絵をタブレットで書いたり、どうやったら学習したことが他学年に伝わるか考え工夫することができた。

他学年やお家の人に発表することで、自分たちが一年間学習したことを伝えることができ、子どもたち自身も充実した学習になったと思う。このままで終わるのではなく、来年度もつながっていくように引き継いでいくことが課題である。

# 6年 単元名「海の豊かさを守ろう」

## 阪南市立上荘小学校

### 1. 単元目標

阪南の海での生き物観察やアマモの再生活動を通して、生物の多様性や海の豊かさを知り、海辺の環境と人々の生活との関わりについて考え、自然環境を守る実践力を養う。

### 2. 単元の評価基準

#### ○知識・技能

アマモ場の再生活動に携わったり、海の生き物を観察したりすることで、生物の多様性や海の豊かさを知る。

自分たちの生活が環境に与えている影響について調べている。

#### ○思考・判断・表現

調べたことをもとに、環境問題やその解決のためにできることを効果的に発信しようとしている。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

身の回りの環境問題に対して、意欲的に課題解決に取り組もうとしている。

### 3. 単元の指導計画（全18時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○今までに学習したことを振り返る。 アマモの種を採取したことやワカメを収穫したことを振り返る。 アマモの海での役割を振り返る。	○アマモが成長した様子を見せ、自分たちの活動の成果を感じさせる。 ○副読本を活用し、アマモの役割を振り返る。
2	2・3	○アマモ場をつくる。 自分たちの手で育てたアマモを海底に植え付ける。	○アマモを傷つけないように慎重に取り扱わせる。 ☆外部講師の方からアマモの植え方を説明していただく。
	4	○海岸清掃を行う。（1回目） 清掃活動を行い、海岸をきれいにする。 どんな種類のゴミが多いのか調べる。	○実際の海にはどんなゴミが落ちているのかに気づかせる。
	5	○海岸清掃を行う。（2回目） 季節によりゴミの量や種類に変化があるのか調べる。	○季節によってゴミの量や種類に変化があるのかに気づかせる。

	6・7	○生き物調査を行う。 生き物の分類方法について知る。 生き物の種類や特徴について知る。	○阪南の海には多種多様な生き物が存在していることに気づかせる。 ☆外部講師の方に生き物の種類や特徴などを説明していただく。
3	8  9 (本時) ～ 11	○課外活動を振り返る。 海岸のゴミの様子や季節による変化を振り返る。 アマモや生き物の変化を振り返る。  ○環境問題について調べる。 ゴミ問題だけでなく、様々な要因が海洋汚染につながっていることについて気づき、調べる。	○活動の写真を比較提示し、比較して考えやすいようにする。  ○活動をもとに、海洋汚染だけでなく世界には様々な環境問題があることに目を向けさせる。
4	12・ 13  14 ～ 17	○自分たちにできることを考える。 調べてきたことをもとに、海や地球のために自分たちができることを考える。  ○発信する方法を考え、まとめる。 お互いに意見を出し合い、推敲する。	○他教科とも関連させながら、身近なことからも地球のためになることに気づかせる。  ○聞き手のことを考えてどのような発信にするのか、方法を考えさせる。
5	18	○発信する。 他学年に調べてきたことや協力してもらいたいことを発信する。	○学年に応じて理解しやすい内容を提示させる。

#### 4. 他教科等との関連

○国語科「私たちにできること」

- ・身の回りにある問題を取り上げ、それに対する解決方法を提案する文章を書く。

○理科「生物どうしのつながり」「自然とともに生きる」

- ・生物のつながりについて興味・関心をもち、生物と環境についての考えをもつことができるようにする。
- ・身近な環境問題を調べ、生物と環境との関わりについての考えをもつことができるようにするとともに、自然を大切にしようとする態度を育てる。

#### 5. 本時の展開（9／18時）

(1) 本時の目標／副読本活用のねらい・効果

自分たちの生活が環境に与えている影響について調べている。

(2) 本時の学習過程

(時間)	学 習 活 動	指導上の留意点	副読本の活用の仕方/ 副読本の活用の留意点
5	<p>○課外活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸には季節を問わずゴミがいっぱいあった。</li> <li>・生き物の数が減ってきていると聞いた。</li> </ul>	<p>○活動の様子の写真を提示したり，外部講師の方の話を振り返ったりして，課外活動を思い起こさせる。</p>	<p>○副読本 p 32 を見せる。</p> <p>○副読本を見て，活動の内容を思い起こさせる。</p>
3 5	<p>○ゴミによる環境問題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミによって魚が卵を産む場所がなくなる。</li> <li>・ゴミを食べて死んでしまう魚がいる。</li> <li>・マイクロプラスチック問題という問題がある。</li> </ul> <p>○他にもどんな環境問題があるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界でこんなことが起こっていたなんて知らなかった。</li> <li>・わたしたちには何ができるのだろう。</li> </ul>	<p>○タブレットを活用し，情報を収集させる。</p> <p>○情報過多にならないように予めサイトを絞って提示しておく。</p> <p>○世界で起こっている環境問題は海洋汚染だけではないことに気づかせる。</p>	<p>○副読本 p 34～36 を見せる。</p> <p>○副読本の内容をもとに，タブレットを活用してどのような情報を集めるか、めどをたてる。</p> <p>○副読本の p 23 の QR コードを活用させる。</p> <p>○副読本 p 37～41 を見せる。</p>
5	<p>○詳しく調べていきたい内容を決める。</p>	<p>○特に発信したいことは何かに着目させて，テーマを決めさせる。</p>	<p>○副読本 p 28, 29 を見せて参考にさせる。</p>

6. 成果と課題

環境問題という知識としては知っている児童はいても，自分たちが住んでいる地域の海の様子がどうなのか知らない児童がほとんどであった。実際に清掃活動をして，海岸の現状を目の当たりにしたことで，他にも自分たちにできることはないだろうかと考える児童が多くなった。ただ，校内への発信だけに留まっているので，今後は外部への発信も視野に入れていきたい。